

HP KVMサーバ コンソール スイッチ ユーザ ガイド



2003年10月
製品番号 339674-191

© 2003 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Microsoft®、Windows®およびWindows NT®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

ENERGY STAR®は、米国の登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品に対する保証については、当該製品の保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

HP KVMサーバ コンソール スイッチ ユーザ ガイド

2003年10月

製品番号 339674-191

対象読者

このガイドは、サーバのインストール、管理、トラブルシューティングの担当者を対象とし、保守の資格があり、高電圧製品の危険性について理解していることを前提としています。



安全に使用していただくために

同梱の『安全に使用していただくために』をよく読んでから、製品のインストールを開始してください。

目次

HP KVMサーバ コンソール スイッチの取り付け	7
概要	7
取り付け前のチェックリスト	7
キットの内容	7
同梱されていない必要な品目	8
オプションの品目	8
必要な工具	8
ラックへのHP KVMサーバ コンソール スイッチの取り付け	8
サイドマウント タイプA	9
サイドマウント タイプB	10
標準マウント	12
1Uマウント タイプA	13
1Uマウント タイプB	15
コンポーネント	17
KVMサーバ コンソール スイッチ システムの構成	17
サーバ名の追加	19
インタフェース アダプタの取り付け	21
概要	21
インタフェース アダプタの設定	21
拡張モジュールの取り付け	23
概要	23
取り付け前のチェックリスト	23
キットの内容	23
拡張モジュール ハードウェアの取り付け	23
サイドマウント	24
レールマウント	25
マジック テープ マウント	26
拡張モジュールの接続	26
コンソール スイッチのカスケード接続	27
互換性のあるコンソール スイッチ モデル	27
コンパクト製サーバ コンソール スイッチ	28
HP IPコンソール スイッチ	29
HP KVMサーバ コンソール スイッチ同士のカスケード接続	29

HP KVMサーバ コンソール スイッチ カスケード構成の例	32
コンパクト製サーバ コンソール スイッチとHP KVMサーバ コンソール スイッチの カスケード接続	33
コンパクト製サーバ コンソール スイッチ カスケード構成の例	35
HP KVMサーバ コンソール スイッチとHP IPコンソール スイッチのカスケード接続	36
HP IPコンソール スイッチ カスケード構成の例	39

ローカル ポート 操作 41

ローカル ポート 操作の概要	41
[Main (メイン)] ダイアログ ボックスへのアクセス	41
ポートおよびサーバの表示と選択	42
ソフト スイッチ	46
サーバのソフト スイッチの設定	46
サーバのソフト スイッチ	47
前のサーバへのソフト スイッチ	47
OSD操作のためのキーの使用法	48
[Setup (セッテイ)] ダイアログ ボックスの設定	49
[Setup (セッテイ)] ダイアログ ボックスへのアクセス	49
サーバに関する日常的なタスクの管理	50
サーバ名の割り当て	50
[Names (ナマエ)] ダイアログ ボックスへのアクセス	50
デバイス タイプの割り当て	51
[Devices (デバイス)] ダイアログ ボックスへのアクセス	51
デバイス タイプの変更	52
サーバ名の割り当て	54
表示動作の変更	55
[Menu (メニュー)] ダイアログ ボックスへのアクセス	55
サーバの表示順の選択	55
OSDを表示するまでの遅延時間の設定	56
ステータス フラグの制御	56
[Flag (フラグ)] ダイアログ ボックスへのアクセス	57
ステータス フラグの表示	57
サーバへのブロードキャスト	58
キーストロークのブロードキャスト	58
マウスの動きのブロードキャスト	59
[Broadcast (ブロードキャスト)] ダイアログ ボックスへのアクセス	59
選択されているサーバへのブロードキャスト	59
[Broadcast (ブロードキャスト)] ダイアログ ボックスの起動	60
スキャン パターンの設定	60
[Scan (スキャン)] ダイアログ ボックスへのアクセス	61
[Scan (スキャン)] リストへのサーバの追加	61
[Scan (スキャン)] リストからのサーバの削除	62
スキャン モードの起動	62
スキャン モードの停止	62

ローカル コンソール スイッチのセキュリティの設定	63
[Security (セキュリティ)]ダイアログ ボックスへのアクセス	64
パスワードの変更	64
パスワード保護の設定	65
KVMサーバ コンソール スイッチへのログオン	65
パスワード保護の削除	65
スクリーンセーバ モードの終了	66
パスワード保護のないスクリーンセーバ モードの起動	66
スクリーンセーバの無効化	67
スイッチ モードの変更	67
[Switch]ダイアログ ボックスへのアクセス	68
OSDによるサーバタスクの管理	69
[Commands (コマンド)]ダイアログ ボックスへのアクセス	69
システム診断の実行	70
[Run Diagnostics (シンダンノ ジッコウ)]の起動	72
バージョン情報の表示	73
[Version (バージョン)]ダイアログ ボックスへのアクセス	74
ファームウェアの更新	77
コンソール スイッチ ファームウェアの更新	77
インタフェース アダプタ ファームウェアの同時更新	78
インタフェース アダプタ ファームウェアの個々のアップグレード	79
トラブルシューティング	81
トラブルシューティングに関する表	82
接続距離に関する表	83
規定に関するご注意	85
規定準拠識別番号	85
各国別勧告	85
Federal Communications Commission Notice	86
Declaration of Conformity for Products Marked with the FCC Logo, United States Only	87
Modifications	88
Cables	88
Canadian Notice (Avis Canadien)	88
European Union Notice	89
BSMI Notice	90
Korean Notices	90

頭字語と略語	91
--------	----

索引	93
----	----

HP KVMサーバ コンソール スイッチの 取り付け

この項の目次

概要.....	7
取り付け前のチェックリスト.....	7
ラックへのHP KVMサーバ コンソール スイッチの取り付け.....	8
コンポーネント.....	17
KVMサーバ コンソール スイッチ システムの構成.....	17
サーバ名の追加.....	19

概要

HP KVMサーバ コンソール スイッチには、ラックマウント用ブラケットが付属しており、ラックへの取り付けが簡単にできます。HP KVMサーバ コンソール スイッチや他のコンポーネントをラック キャビネットにまだ取り付けていない場合、取り付け前にラックを設置場所に固定してください。装置は、ラック キャビネットの一番下から順に取り付けてください。また、ラック キャビネットに装置を傾けて取り付けたり、ラックの強度以上に取り付けたりしないように注意してください。

取り付け前のチェックリスト

取り付け前に、以下のすべての部品が揃っていることを確認してください。

キットの内容

- KVMサーバ コンソール スイッチ
- 電源コード
- ラックマウント キット
- シリアル ダウンロード ケーブル
- ドキュメンテーション キット

- ファームウェアCDキット

このキットには、部品によっては余分な数量が含まれている場合があります。必要に応じてご使用ください。

同梱されていない必要な品目

- PS/2インタフェース アダプタまたはUSBインタフェース アダプタ
- UTP CAT5ケーブル (CAT6およびCAT7ケーブルも使用可能です)

オプションの品目

拡張モジュール (23ページの「拡張モジュールの取り付け」を参照)

必要な工具

- プラス ドライバ
- トルクス ドライバ (T-25)

ラックへのHP KVMサーバ コンソール スイッチの 取り付け

注: HP KVMサーバ コンソール スイッチをラックに取り付ける前に、付属の電源コードを使用してHP KVMサーバ コンソール スイッチを電源に接続し、装置の電源を入れてください。数秒後、動作インジケータLED (17ページの「コンポーネント」を参照) が点灯します。動作インジケータLEDが点灯しない場合は、電源が入っていること、電源コードが接続されていること、および電源が機能していることを確認してください。

ラックマウント構成には、以下の複数の方法があります。

- サイドマウント
 - タイプA - 角穴とセルフタッピングネジ用の丸穴が交互に配置されているレール
 - タイプB - 角穴のみのレール

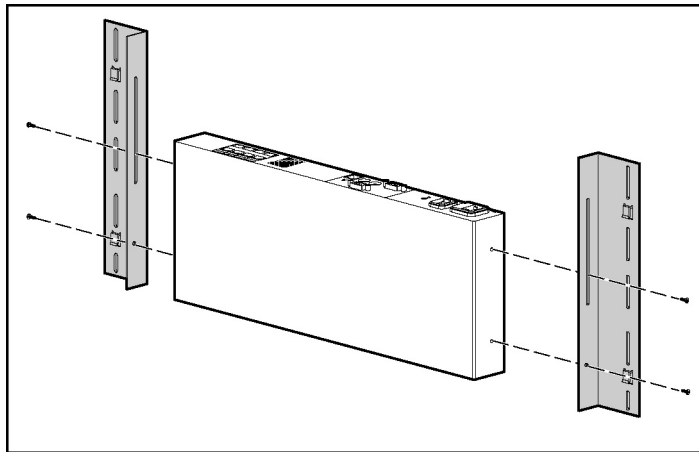
注: HP KVMサーバ コンソール スイッチをサイドマウントする場合は、サイドマウント用のレールに、角穴とセルフタッピングネジ用の丸穴が交互に配置されているか、角穴のみとなっている必要があります。

- 標準マウント

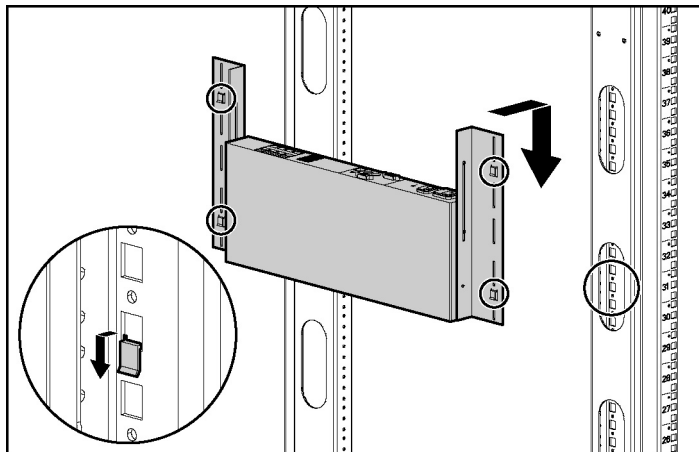
- IUマウント
 - タイプA - 丸穴レール
 - タイプB - 角穴レール

サイドマウントタイプA

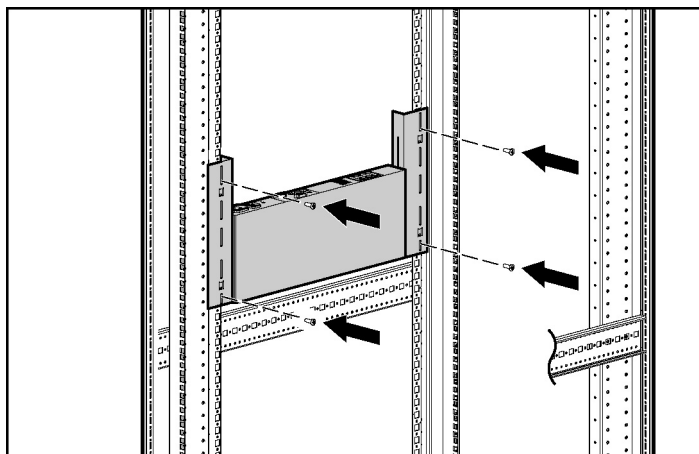
1. コンソールスイッチの各側面から2本ずつ、計4本のネジを取り外します。
2. 取り外した4本のネジを使用して、サイドマウンティングブラケットをコンソールスイッチに取り付けます。



3. サイド マウンティング ブラケットのタブを、ラックの各側面の対応する位置にスライドさせ挿入します。



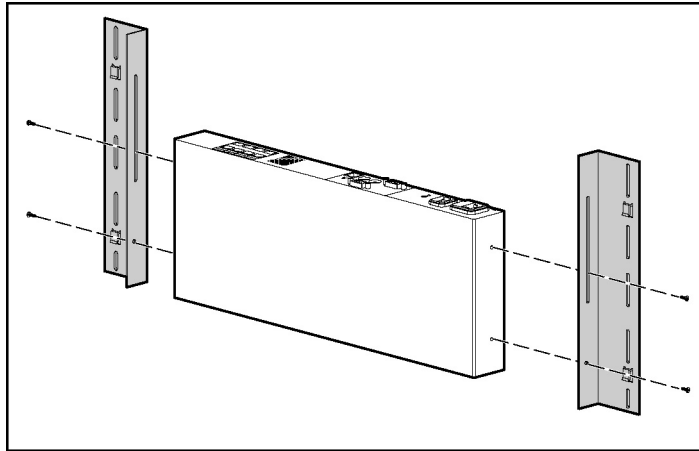
4. 各側面に各2本、計4本のセルフ タッピング ネジを使用して、レールにコンソールスイッチを固定します。



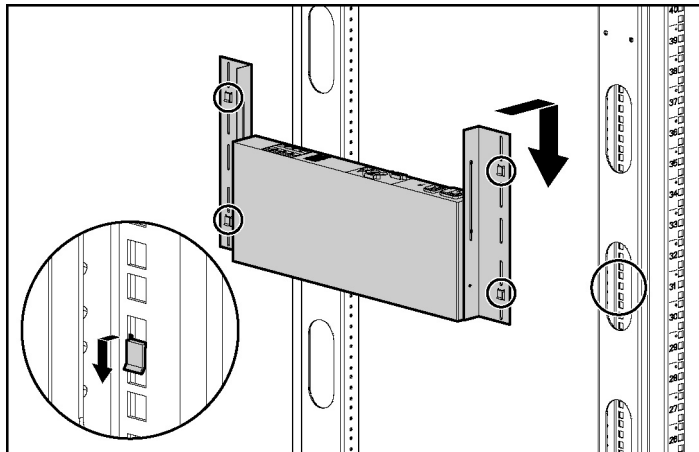
サイドマウントタイプB

1. コンソールスイッチの各側面から2本ずつ、計4本のネジを取り外します。

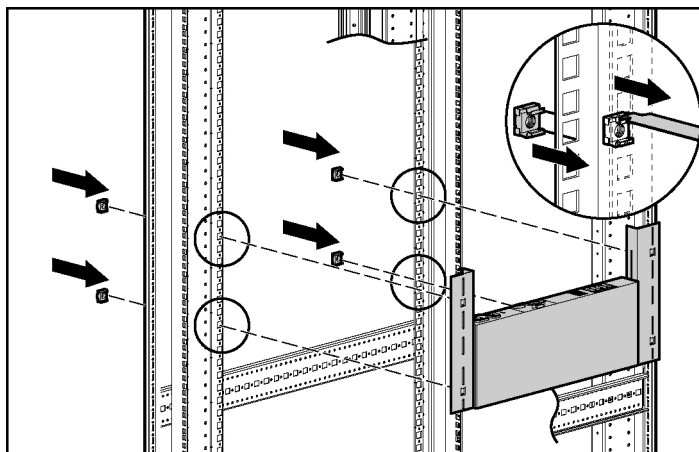
2. 取り外した4本のネジを使用して、サイドマウンティングブラケットをコンソールスイッチに取り付けます。



3. サイドマウンティングブラケットのタブを、ラックの各側面の対応する位置にスライドさせ挿入します。



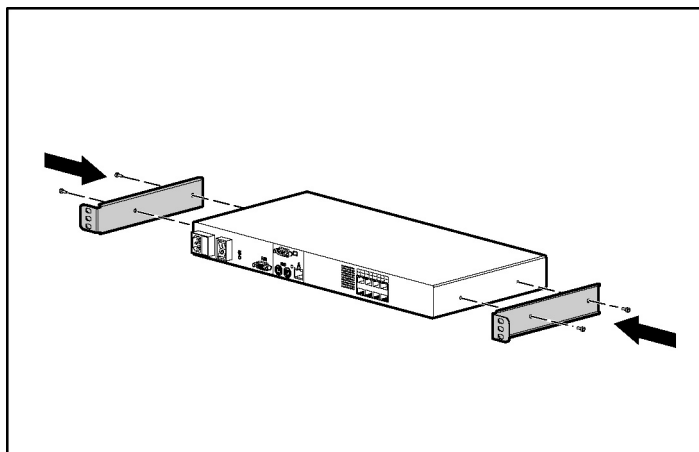
4. サイドマウントングブラケットの対応する位置に、4個のケージナットを挿入します。



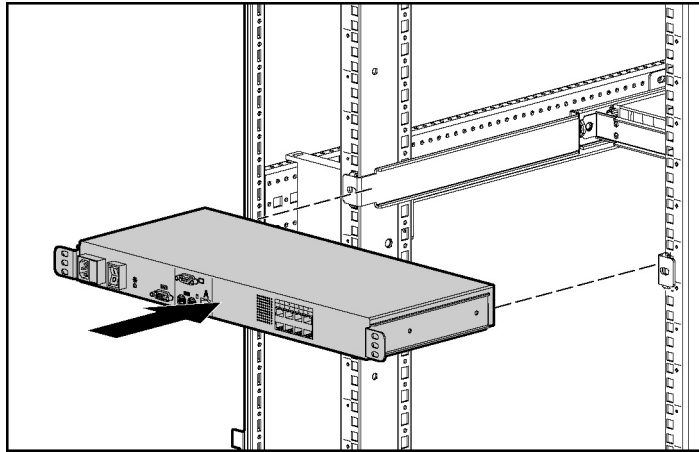
5. 各側面に各2本、計4本のM-6ネジを使用して、レールにコンソールスイッチを固定します。

標準マウント

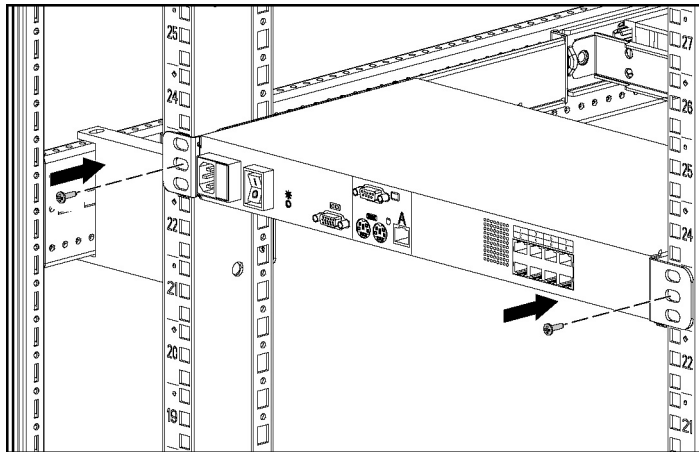
1. コンソールスイッチの各側面から2本ずつ、計4本のネジを取り外します。
2. 取り外した4本のネジを使用して、1Uブラケットをコンソールスイッチに取り付けます。



3. 背面側レールの裏側にケージ ナットが取り付けられていない場合は、取り付けます。
4. コンソール スイッチをスライドさせて挿入し、IU製品の背面側に設置します。



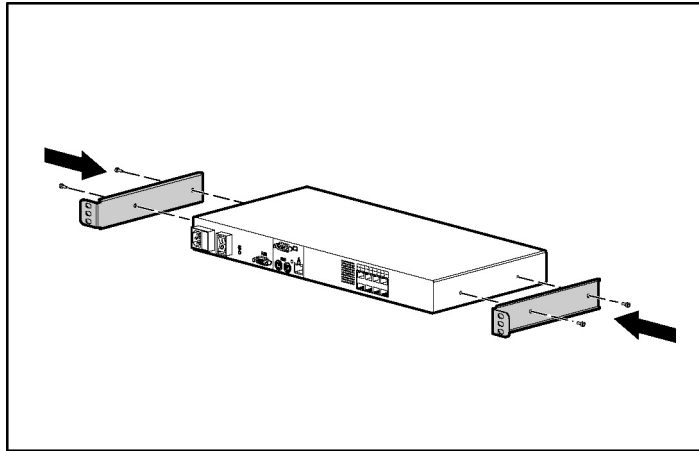
5. 各側面に各1本、計2本のM-6ネジを使用して、レールにコンソール スイッチを固定します。



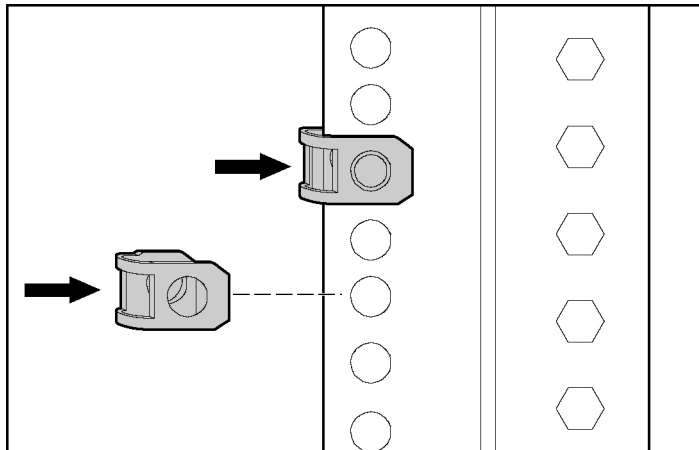
1UマウントタイプA

1. コンソール スイッチの各側面から2本ずつ、計4本のネジを取り外します。

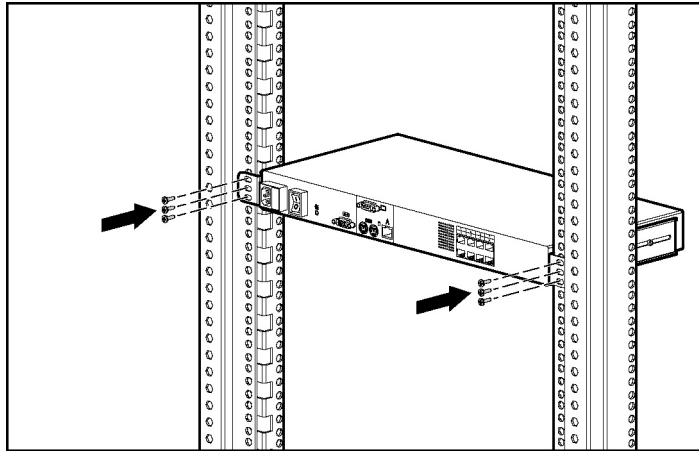
2. 取り外した4本のネジを使用して、1Uブラケットをコンソール スイッチに取り付けます。



3. 最大6個のクリップナットを取り付けます。

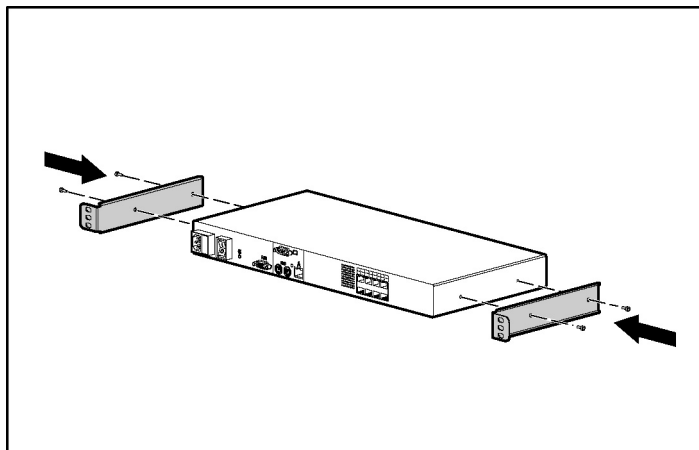


4. 該当する数のトルクス ネジ (T-25) を使用して、レールにコンソール スイッチを固定します。

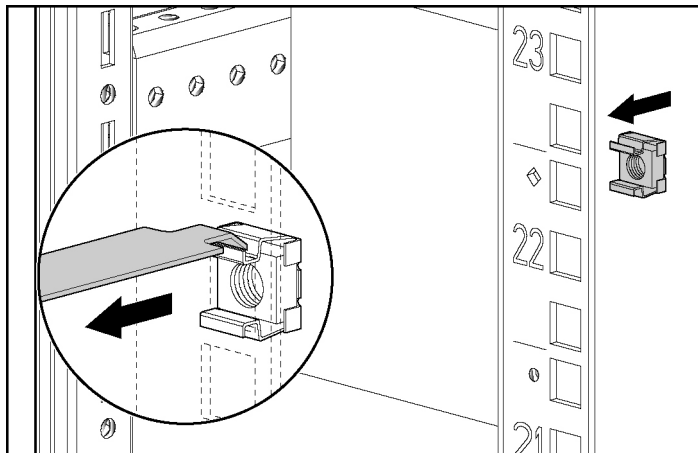


1Uマウント タイプB

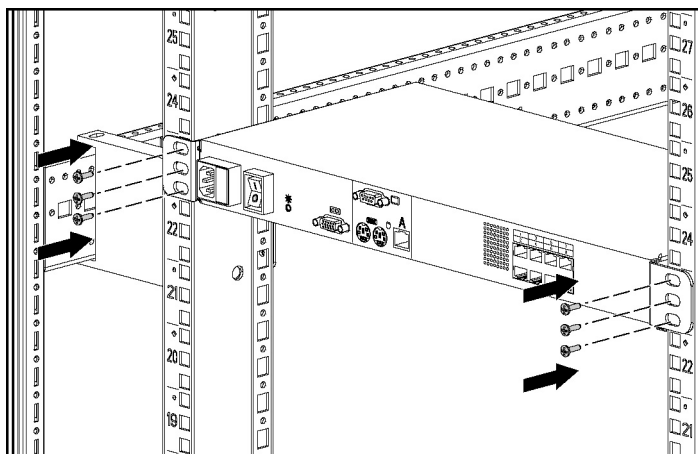
1. コンソール スイッチの各側面から2本ずつ、計4本のネジを取り外します。
2. 取り外した4本のネジを使用して、1Uブラケットをコンソール スイッチに取り付けます。



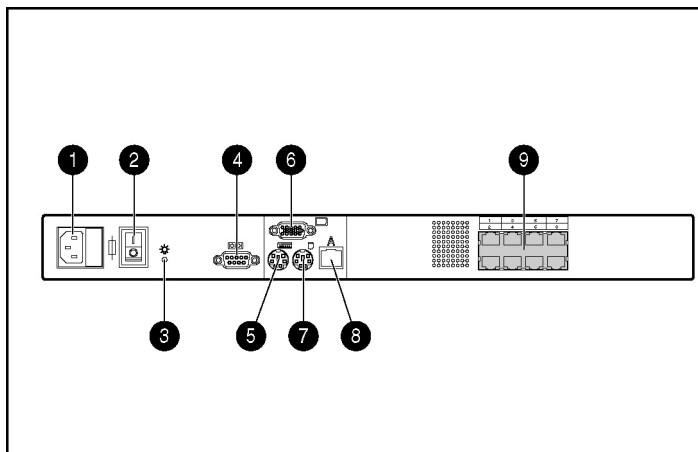
3. 最大6個のケージナットを取り付けます。



4. 該当する数のM-6ネジを使用して、レールにコンソールスイッチを固定します。



コンポーネント



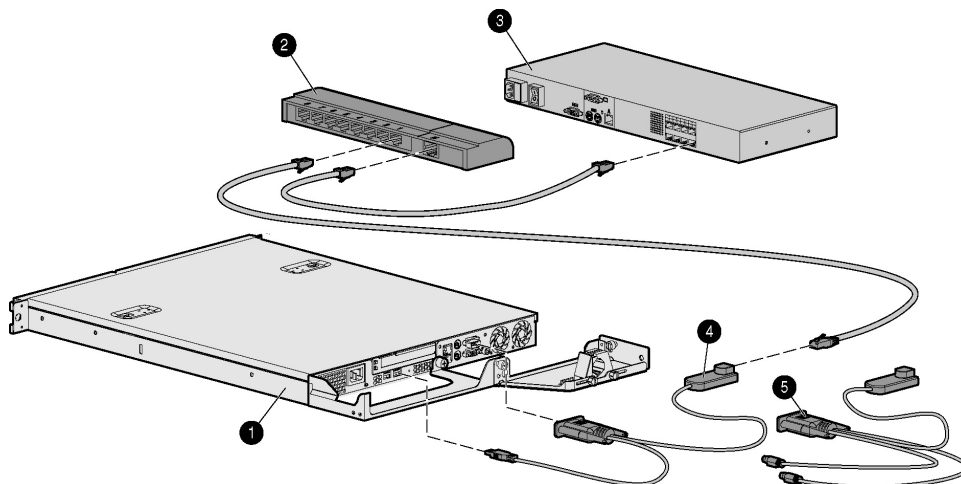
番号	説明
1	電源コネクタ
2	電源スイッチ
3	動作インジケータLED
4	シリアルダウンロードコネクタ
5	キーボードコネクタ
6	モニタコネクタ
7	マウスコネクタ
8	RJ-45インタフェースポート (Aの印があります)
9	サーバ接続ポート

KVMサーバコンソールスイッチシステムの構成

1. 拡張モジュールを接続します (23ページの「拡張モジュールの取り付け」を参照)。
2. インタフェースアダプタを接続します (21ページの「インタフェースアダプタの取り付け」を参照)。

3. HP KVMサーバ コンソール スイッチの電源を入れます。動作インジケータLED (17ページの「コンポーネント」を参照) が点灯します。
4. モニタの電源を入れます。
5. サーバの電源を入れます。

次の図に、HP KVMサーバ コンソール スイッチ システムの構成例を示します。



番号	説明
1	サーバ
2	拡張モジュール
3	HP KVMサーバ コンソール スイッチ
4	USB インタフェース アダプタ
5	PS/2 インタフェース アダプタ

サーバ名の追加

HP KVMサーバコンソールスイッチシステムは、OSDを使用して設定できます。IPコンソールスイッチとカスケード接続する場合は、IPコンソールビューアでコンソールスイッチを追加または検出する前に、ローカルアナログステーションのOSDにサーバ名を追加することをおすすめします。

サーバ名を追加する手順については、「サーバ名の割り当て」（50ページ）の項を参照してください。

インタフェース アダプタの取り付け

この項の目次

概要.....	21
インタフェース アダプタの設定	21

概要

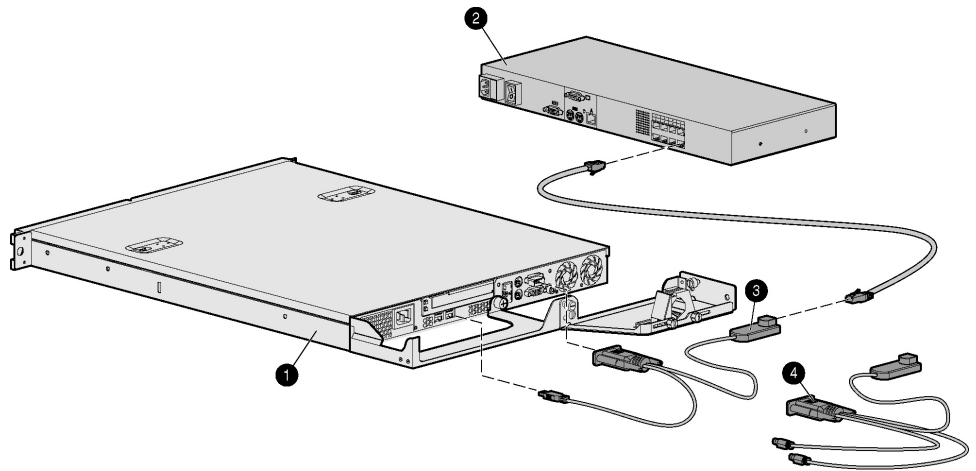
HP KVMサーバ コンソール スイッチ システムが正常に動作するには、インタフェース アダプタが必要です。ただし、インタフェース アダプタは、HP KVMサーバ コンソール スイッチ キットには同梱されていません。インタフェース アダプタを使用することにより、UTP CAT5ケーブルをPS/2またはUSB接続に接続して、サーバへのキーボード、ビデオ、およびマウス セッションを確立できます。

注：このガイドの各例では、UTP CAT5ケーブルを使用していますが、UTP CAT6ケーブルやUTP CAT7ケーブルを使用することもできます。

インタフェース アダプタの設定

1. HP KVMサーバ コンソール スイッチのサーバ接続ポート（17ページの「コンポーネント」を参照）にUTP CAT5ケーブルを接続します。
2. 同じUTP CAT5ケーブルのもう一方の端を、インタフェース アダプタのRJ-45ポートに接続します。
3. インタフェース アダプタをサーバの該当するポートに接続します。
4. 上記の手順を繰り返して、別のサーバをこのシステムに接続します。

次の図に、インタフェース アダプタを使用したHP KVMサーバ コンソール スイッチ システムの構成例を示します。



番号	説明
1	サーバ
2	HP KVMサーバコンソールスイッチ
3	USBインターフェースアダプタ
4	PS/2インターフェースアダプタ

拡張モジュールの取り付け

この項の目次

概要.....	23
取り付け前のチェックリスト.....	23
拡張モジュールハードウェアの取り付け.....	23
拡張モジュールの設定.....	26

概要

オプションの拡張モジュールを、HP KVMサーバ コンソール スイッチ システムに追加すると、アクセス可能なサーバ総数を増やすことができます。拡張モジュールには、ご使用のラックに簡単に統合するためのラックマウント用ハードウェア部品が同梱されています。

取り付け前のチェックリスト

取り付け前に、以下のすべての部品が揃っていることを確認してください。

キットの内容

- 拡張モジュール
- ネジ
- マジック テープ

このキットには、部品によっては余分な数量が含まれている場合があります。必要に応じてご使用ください。

拡張モジュール ハードウェアの取り付け

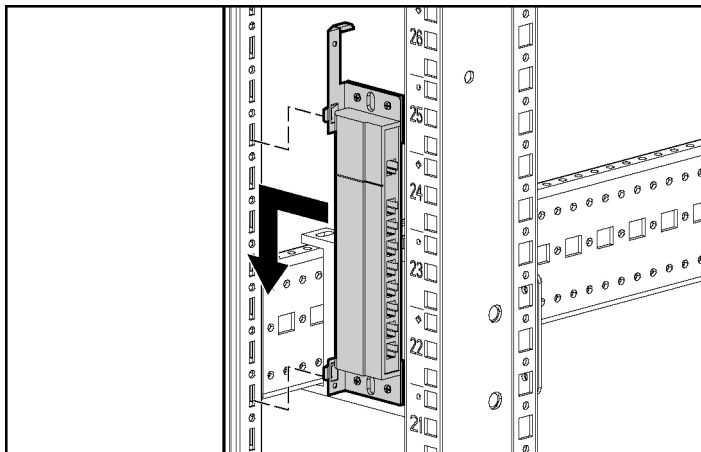
ラックマウント構成には、以下の複数の方法があります。

- サイドマウント
- レールマウント

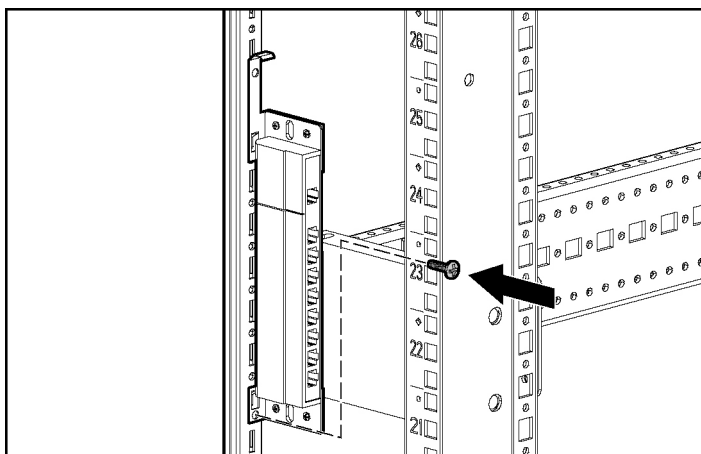
- マジック テープ マウント

サイド マウント

1. サイド マウンティング ブラケットのタブを、ラック フレームの中にスライドさせて挿入します。

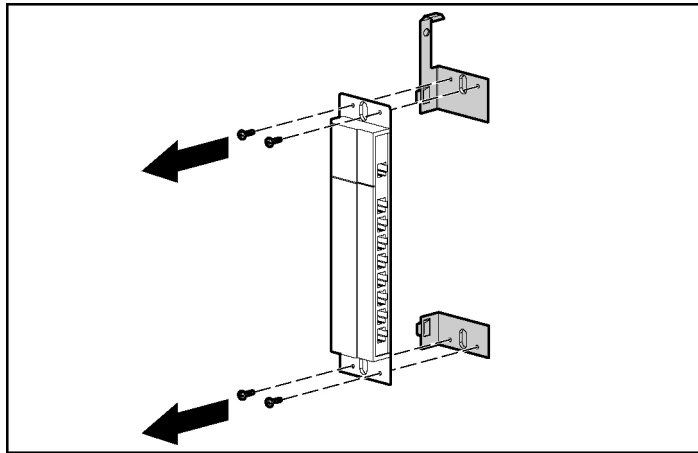


2. 1本のセルフ タッピング ネジを下側のサイド マウンティング ブラケットに使用して、拡張モジュールをラック フレームに固定します。

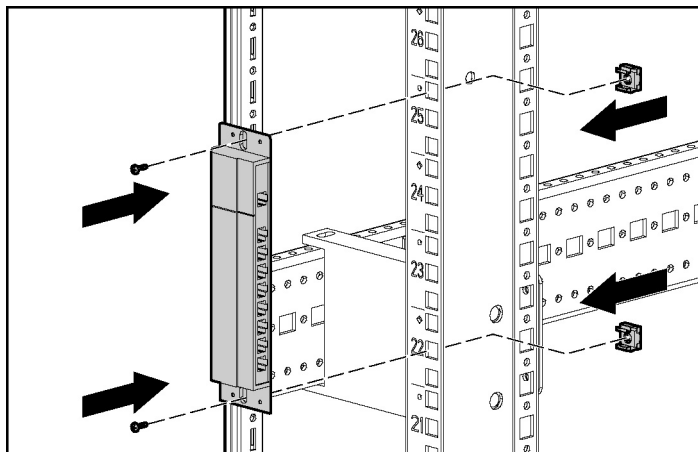


レール マウント

1. サイド マウンティング ブラケットを拡張モジュールに固定しているネジを取り外します。

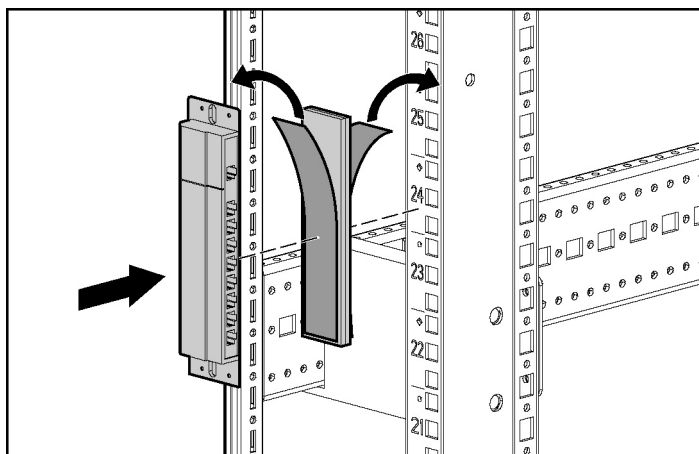


2. サイドマウンティングブラケットの穴が配置されているラックフレームの中に、2個のケージナットを挿入し、2本のM-6ネジを使用して、拡張モジュールをラックフレームに固定します。



マジック テープ マウント

1. 拡張モジュールの位置を決定します。
2. マジック テープの一方の保護ストリップを取り外して、マジック テープを拡張モジュールに取り付けます。
3. マジック テープのもう一方の保護ストリップを取り外して、拡張モジュールをラック フレームに取り付けます。



拡張モジュールの接続

1. 拡張モジュールをラックに取り付けます。
2. UTP CAT5ケーブル（最大9本）を配置します。
3. 1本のUTP CAT5ケーブルを、HP KVMサーバ コンソール スイッチのサーバ接続ポート（17ページの「コンポーネント」を参照）に接続します。
4. 手順3のUTP CAT5ケーブルのもう一方の端を、拡張モジュールのINポートに接続します。
5. 他のUTP CAT5ケーブルの一方の端を、拡張モジュールのOUTポートに接続します。
6. 手順5のUTP CAT5ケーブルのもう一方の端を、インタフェース アダプタに接続します（21ページの「インタフェース アダプタの取り付け」を参照）。
7. 他のサーバをこのシステムに接続する場合は、手順5～6を繰り返します。

コンソール スイッチのカスケード接続

この項の目次

互換性のあるコンソール スイッチ モデル.....	27
HP KVMサーバ コンソール スイッチ同士のカスケード接続.....	29
コンパック製サーバ コンソール スイッチとHP KVMサーバ コンソール スイッチの カスケード接続.....	33
HP KVMサーバ コンソール スイッチとHP IPコンソール スイッチのカスケード接続.....	36

互換性のあるコンソール スイッチ モデル

HP KVMサーバ コンソール スイッチとコンソール スイッチをカスケード接続する前に、以下の情報をよく読んでおいてください。

HP KVMサーバ コンソール スイッチがサポートするカスケード接続は、1層だけです。拡張モジュールは1層のカスケード接続と見なされます。このため、カスケード接続されたコンソール スイッチと組み合わせて使用することはできません。

コンソール スイッチをカスケード接続した場合、正しく動作させるために、装置の電源投入の順序を正しく行ってください。つまり、コンソール スイッチ、モニタ、サーバの順に電源投入してください。



注意：HP KVMサーバ コンソール スイッチ同士のカスケード接続に、インタフェース アダプタを使用しないでください。HP KVMサーバ コンソール スイッチ同士のカスケード接続にインタフェース アダプタを使用すると、正しく動作しない場合があります。

注：HP KVMサーバ コンソール スイッチは、コンパック製KVM PCIスイッチやHP製の従来のコンソール スイッチをサポートしません。

注：カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチおよび接続されるすべてのインタフェース アダプタのファームウェアをアップグレードするには、カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチにキーボード、モニタ、およびマウスをローカル接続して、ローカルOSDにアクセスする必要があります。

コンパック製サーバコンソールスイッチ



注意：Compaqデュアル8ポートサーバコンソールスイッチをカスケード接続する場合、同時に接続するインタフェースアダプタは1つだけにしてください。複数のインタフェースアダプタを接続すると、正しく動作しない場合があります。



注意：コンソールスイッチをカスケード接続する場合は、必ず、コンパック製サーバコンソールスイッチをHP KVMサーバコンソールスイッチの下にカスケード接続してください。このカスケード接続順序に従わないと、正しく動作しない場合があります。

次のコンパック製サーバコンソールスイッチをHP KVMサーバコンソールスイッチシステムに統合できます。互換性のあるコンパック製サーバコンソールスイッチモデルは、次のとおりです。

- 4ポートコンソールスイッチボックス（製品番号：400336-291）
- 8ポートコンソールスイッチボックス（製品番号：400337-291）
- デュアル8ポートコンソールスイッチボックス（製品番号：400338-291）
- 2×8 48VDC（製品番号：400542-B21。日本未発売）

HP KVMサーバコンソールスイッチとカスケード接続する場合、コンパック製サーバコンソールスイッチはすべて、SoftPaqファームウェアバージョン2.1.0以上を使用してアップグレードする必要があります。

HP IPコンソール スイッチ



注意：HP IPコンソール スイッチとHP KVMサーバ コンソール スイッチのカスケード接続にインタフェース アダプタを使用しないでください。これらの製品のカスケード接続にインタフェース アダプタを使用すると、正しく動作しない場合があります。



注意：コンソールスイッチをカスケード接続する場合は、必ず、HP KVMサーバ コンソール スイッチをHP IPコンソール スイッチの下にカスケード接続してください。このカスケード接続順序に従わないと、正しく動作しない場合があります。

次のHP IPコンソール スイッチをHP KVMサーバ コンソール スイッチ システムに統合できます。互換性のあるHP IPコンソール スイッチ モデルは、次のとおりです。

- IPコンソール スイッチ (1×1×16) (製品番号262585-B21)
- IPコンソール スイッチ (3×1×16) (製品番号262586-B21)

HP KVMサーバ コンソール スイッチとカスケード接続する場合、HP IPコンソール スイッチはすべて、SoftPaqファームウェア バージョン2.1.1以上を使用してアップグレードする必要があります。

HP KVMサーバ コンソール スイッチ同士の カスケード接続

注：カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチおよび接続されるすべてのインタフェース アダプタのファームウェアをアップグレードするには、カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチにキーボード、モニタ、およびマウスをローカル接続して、ローカルOSDにアクセスする必要があります。

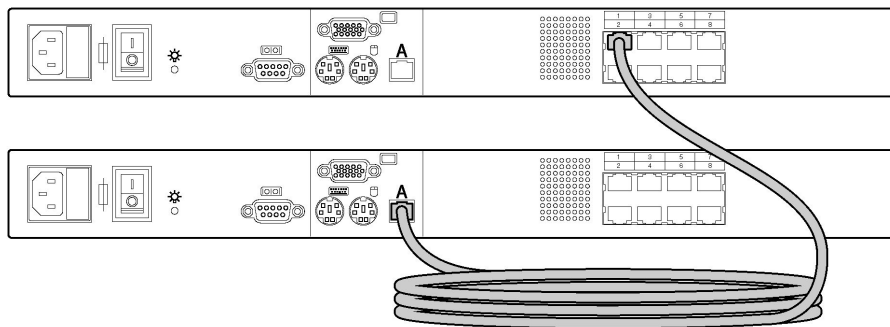
1. コンソール スイッチをラックに取り付けます。
2. UTP CAT5ケーブルを確認して、カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチのサーバ接続ポート (17ページの「コンポーネント」を参照) に一方の端を接続します。
3. 手順2のUTP CAT5ケーブルのもう一方の端を、インタフェース アダプタのRJ-45ポートに接続します。
4. インタフェース アダプタを、サーバの該当ポートに接続します。
5. このシステムに追加する他のサーバについて、手順1~3を繰り返します。

6. ローカル ポート用のキーボード、ビデオ、およびマウス ケーブルをカスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチに接続します。
7. カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチの電源を入れます。
8. モニタの電源を入れます。
9. サーバの電源を入れます。
10. カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチのファームウェアを更新します (77ページの「ファームウェアの更新」を参照)。
11. インタフェース アダプタのファームウェアをすべて更新します (77ページの「ファームウェアの更新」を参照)。
12. カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチの電源を切ります。
13. カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチから、ローカル用のキーボード、ビデオ、およびマウス ケーブルを抜き取ります。
14. メインのHP KVMサーバ コンソール スイッチに、ローカル ポート用のキーボード、ビデオ、およびマウス ケーブルを接続します。
15. メインのHP KVMサーバ コンソール スイッチのサーバ接続ポート (17ページの「コンポーネント」を参照) に、UTP CAT5ケーブルを接続します。
16. カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチのRJ-45インタフェースポート (17ページの「コンポーネント」を参照) に、同じUTP CAT5ケーブルのもう一方の端を接続します。
17. このシステムに追加する他のコンソール スイッチについて、手順15~16を繰り返します。
18. コンソール スイッチの電源を入れます。
19. モニタの電源を入れます。
20. メインのHP KVMサーバ コンソール スイッチのファームウェアを更新します (77ページの「ファームウェアの更新」を参照)。
21. インタフェース アダプタのファームウェアをすべて更新します (77ページの「ファームウェアの更新」を参照)。

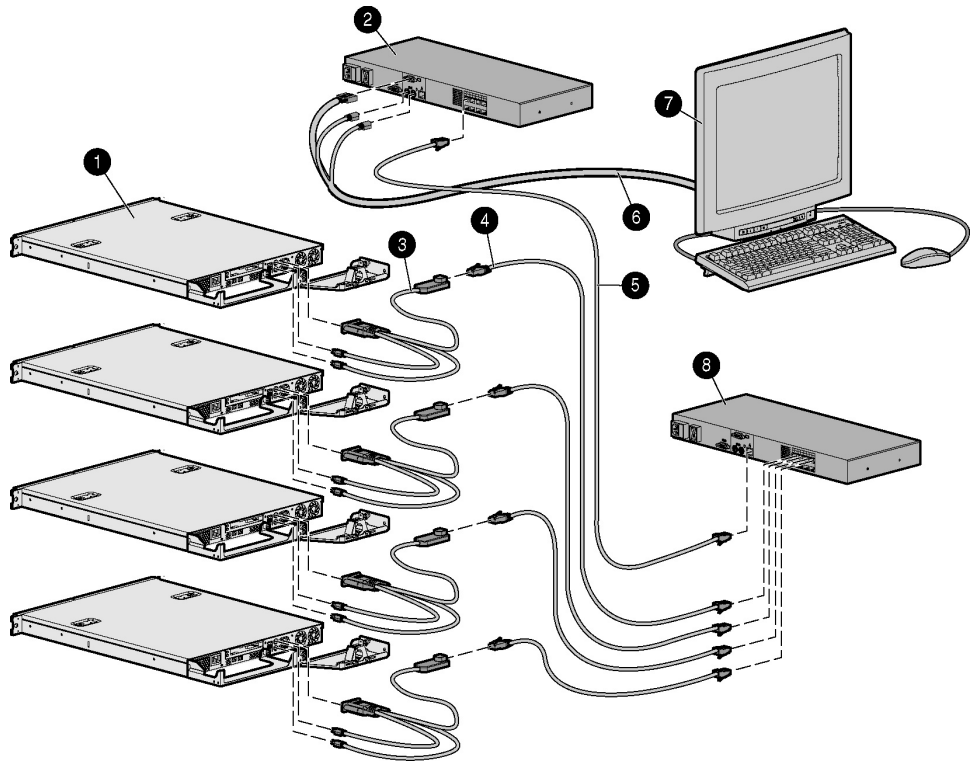
次の図に、他のHP KVMサーバ コンソール スイッチとカスケード接続されたHP KVMサーバ コンソール スイッチを示します。上側のコンソール スイッチがメイン コンソール スイッチで、下側がカスケード接続されたコンソール スイッチです。



注意：HP KVMサーバ コンソール スイッチ同士のカスケード接続に、インタフェース アダプタを使用しないでください。HP KVMサーバ コンソール スイッチ同士のカスケード接続にインタフェース アダプタを使用すると、正しく動作しない場合があります。



HP KVMサーバコンソールスイッチ カスケード構成の例



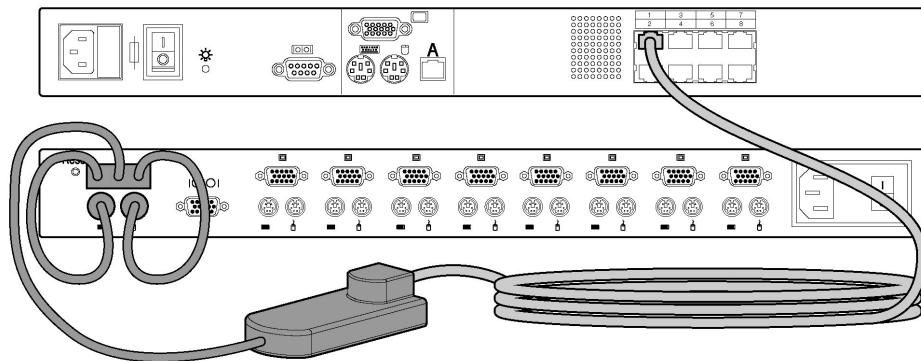
番号	説明
1	サーバ
2	メインのHP KVMサーバ コンソール スイッチ
3	PS/2インタフェース アダプタまたはUSBインタフェース アダプタ*
4	UTP CAT5ケーブル
5	UTP CAT5ケーブル
6	キーボード、ビデオ、およびマウス ケーブル
7	ローカル ポート
8	カスケード接続されたHP KVMサーバ コンソール スイッチ
* 図には示していません。	

コンパクト製サーバ コンソール スイッチとHP KVMサーバ コンソール スイッチのカスケード接続

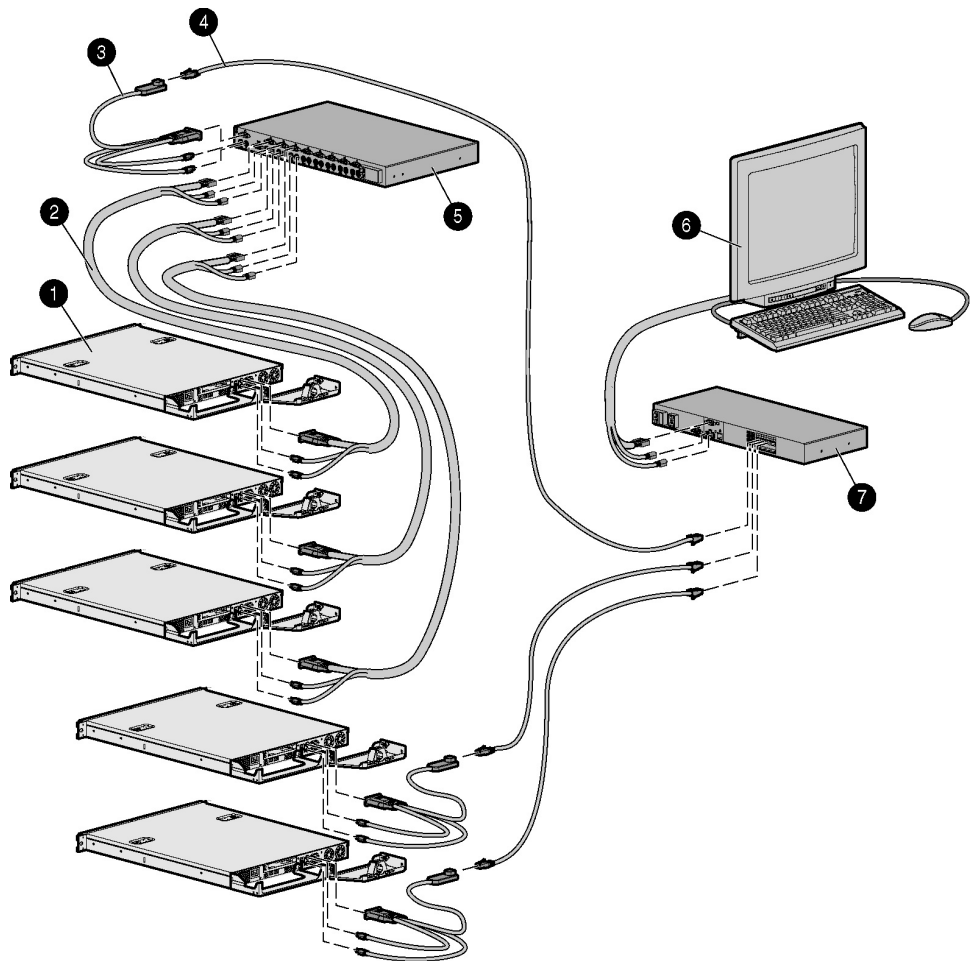
1. コンソール スイッチをラックに取り付けます。
2. HP KVMサーバ コンソール スイッチにローカル ポート用のキーボード、ビデオ、およびマウス ケーブルを接続します。
3. HP KVMサーバ コンソール スイッチのサーバ接続ポート（17ページの「コンポーネント」を参照）に、UTP CAT5ケーブルを接続します。
4. 手順3のUTP CAT5ケーブルのもう一方の端を、インタフェース アダプタのRJ-45ポートに接続します。
5. インタフェース アダプタを、コンパクト製サーバ コンソール スイッチの該当ポートに接続します。
6. コンパクト製サーバ コンソール スイッチのoutポートに、キーボード、ビデオ、およびマウス ケーブルを接続します。
7. 手順6のキーボード、ビデオ、およびマウス ケーブルのもう一方の端を、サーバの該当ポートに接続します。
8. このシステムに追加する他のコンソール スイッチについて、手順3～7を繰り返します。
9. コンソール スイッチの電源を入れます。
10. モニタの電源を入れます。

11. サーバの電源を入れます。

次の図に、HP KVMサーバ コンソール スイッチにカスケード接続されたコンパクト製サーバ コンソール スイッチを示します。上側のコンソール スイッチがメイン コンソール スイッチで、下側がカスケード接続されたコンソール スイッチです。



コンパクト製サーバコンソールスイッチ カスケード構成の例



番号	説明
1	サーバ
2	キーボード、ビデオ、およびマウス ケーブル
3	PS/2インタフェース アダプタ
4	UTP CAT5ケーブル
5	メインのコンパクト製サーバ コンソール スイッチ
6	ローカル ポート
7	カスケード接続されたHP KVMサーバ コンソール スイッチ

HP KVMサーバコンソール スイッチとHP IPコンソール スイッチのカスケード接続

注：カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチおよび接続されるすべてのインタフェース アダプタのファームウェアをアップグレードするには、カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチにキーボード、モニター、およびマウスをローカル接続して、ローカルOSDにアクセスする必要があります。

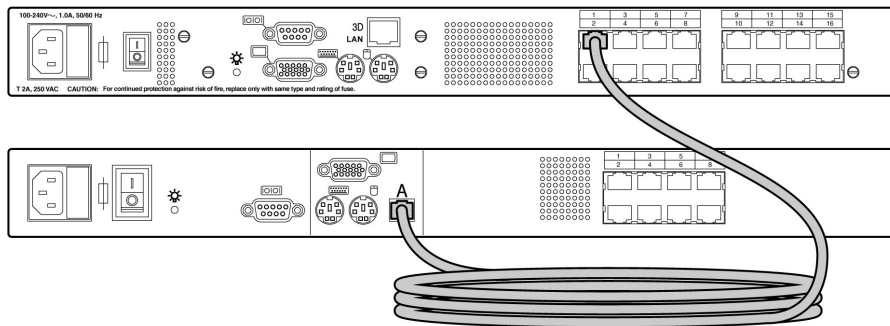
1. コンソール スイッチをラックに取り付けます。
2. UTP CAT5ケーブルを確認して、カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチのサーバ接続ポート（17ページの「コンポーネント」を参照）に、一方の端を接続します。
3. 手順2のUTP CAT5ケーブルのもう一方の端をインタフェース アダプタのRJ-45ポートに接続します。
4. インタフェース アダプタを、サーバの該当ポートに接続します。
5. このシステムに追加する他のサーバについて、手順1～3を繰り返します。
6. ローカル ポート用のキーボード、ビデオ、およびマウス ケーブルをカスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチに接続します。
7. カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチの電源を入れます。
8. モニタの電源を入れます。
9. サーバの電源を切ります。
10. カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチのファームウェアを更新します（77ページの「ファームウェアの更新」を参照）。

11. インタフェース アダプタのファームウェアをすべて更新します（77ページの「ファームウェアの更新」を参照）。
12. カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチの電源を切ります。
13. カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチから、ローカル用のキーボード、ビデオ、およびマウス ケーブルを抜き取ります。
14. メインのHP IPコンソール スイッチに、ローカル ポート用のキーボード、ビデオ、およびマウス ケーブルを接続します。
15. メインのHP IPコンソール スイッチのサーバ接続ポート（17ページの「コンポーネント」を参照）にUTP CAT5ケーブルを接続します。
16. カスケード接続するHP KVMサーバ コンソール スイッチのRJ-45インタフェースポート（17ページの「コンポーネント」を参照）に、同じUTP CAT5ケーブルの他方の端を接続します。
17. このシステムに追加する他のコンソール スイッチについて、手順15～16を繰り返します。
18. コンソール スイッチの電源を入れます。
19. モニタの電源を入れます。
20. メインのHP IPコンソール スイッチのファームウェアを更新します（HP IPコンソール スイッチのマニュアルを参照）。
21. インタフェース アダプタのファームウェアをすべて更新します（77ページの「ファームウェアの更新」を参照）。

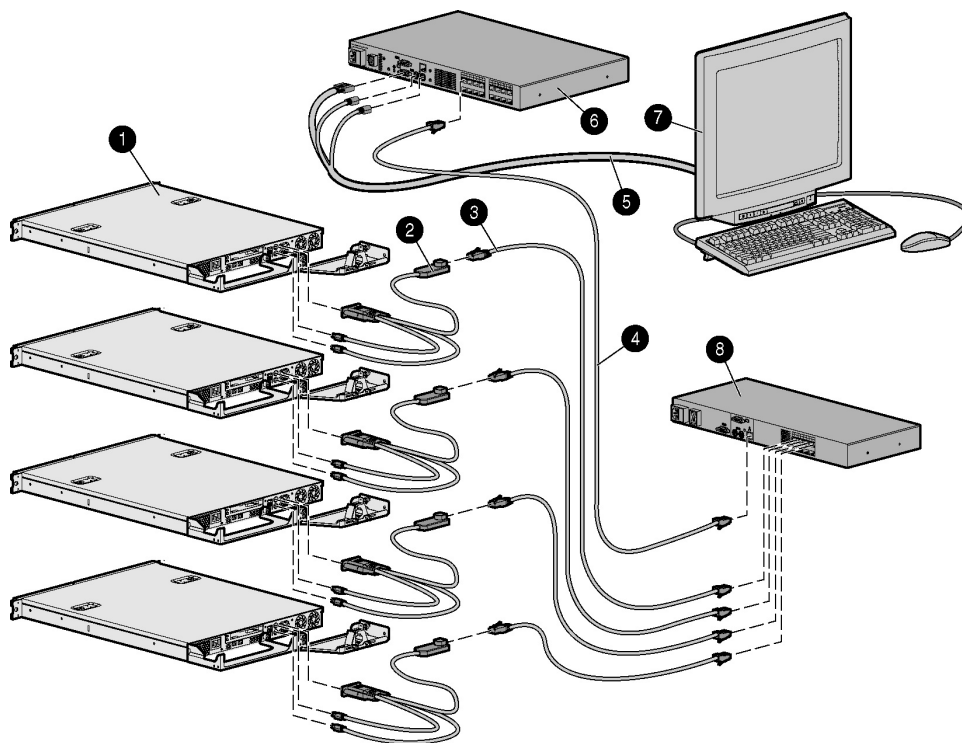
次の図に、HP KVMサーバ コンソール スイッチとカスケード接続されたHP IPコンソール スイッチを示します。上側のコンソール スイッチがメイン コンソール スイッチで、下側がカスケード接続されたコンソール スイッチです。



注意： HP IPコンソールスイッチとHP KVMサーバコンソールスイッチのカスケード接続に、インタフェースアダプタを使用しないでください。これらの製品のカスケード接続にインタフェースアダプタを使用すると、正しく動作しない場合があります。



HP IPコンソールスイッチ カスケード構成の例



番号	説明
1	サーバ
2	PS/2インタフェース アダプタまたはUSBインタフェース アダプタ*
3	UTP CAT5ケーブル
4	UTP CAT5ケーブル
5	キーボード、ビデオ、およびマウス ケーブル
6	メインのHP IPコンソール スイッチ
7	ローカル ポート
8	カスケード接続されたHP KVMサーバ コンソール スイッチ
* 図には示していません。	

ローカル ポート 操作

この項の目次

ローカル ポート 操作の概要	41
ソフト スイッチ	46
OSD操作のためのキーの使用法	48
[Setup (セッテイ)]ダイアログ ボックスの設定	49
サーバ名の割り当て	50
デバイス タイプの割り当て	51
表示動作の変更	55
ステータス フラグの制御	56
サーバへのブロードキャスト	58
スキャン パターンの設定	60
ローカル コンソール スイッチのセキュリティの設定	63
スイッチ モードの変更	67
OSDによるサーバ タスクの管理	69
システム 診断の実行	70
バージョン情報の表示	73

ローカル ポート 操作の概要

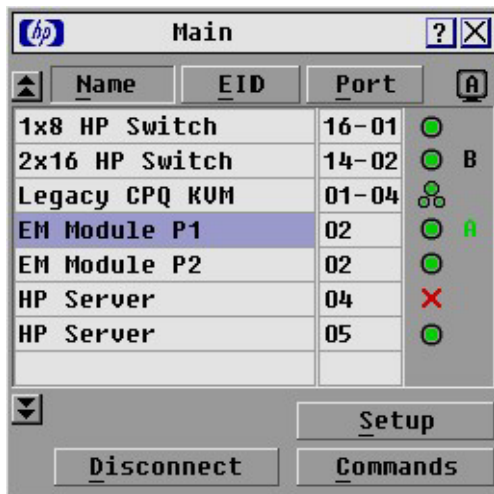
HP KVMサーバ コンソール スイッチ システムのリア パネル (17ページの「コンポーネント」を参照) には、直接アクセスするためにHP KVMサーバ コンソール スイッチにキーボード、モニタ、およびマウスを接続するためのローカル ポートが1つ以上 (各モデルにより異なります) あります。

[Main (メイン)]ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)]ダイアログ ボックスへのアクセスを参照) を使用すると、HP KVMサーバ コンソール スイッチ システム内のサーバを表示、設定、および制御できます。

[Main (メイン)]ダイアログ ボックスへのアクセス

Print Scrnキーを押します。**[Main (メイン)]**ダイアログ ボックスが表示されます。

注： Ctrlキーを1秒間に2回押すことによってOSDを起動することもできます。
このキー操作は、**Print Scrn**キーについて説明しているすべての場所で使用できます。



ポートおよびサーバの表示と選択

名前やポート、または各インタフェース アダプタが持つ固有のEIDによって、サーバを表示できます。

[Port (ポート)]列の表示

[Main (メイン)]ダイアログ ボックスを初めて起動すると (41ページの「[Main (メイン)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照)、OSDが生成するポート リストがデフォルトで表示されます。









[Port (ポート)]列は、サーバが接続されているポートを示します。たとえば、次のスクリーンショットでは、最初の番号が1番目のコンソールスイッチのポート番号、2番目の番号が、サーバが接続されているカスケード接続されたコンソールスイッチのポート番号を示します。

Port
16-01
14-02
01-04
02
02
04
05

1番目のコンソール スイッチのポート番号	カスケード接続されたコンソール スイッチのポート番号	表示されるサーバのステータスアイコン (44ページの「サーバステータス列の表示」を参照)	説明
16	01		サーバは、8ポートHP KVMサーバ コンソール スイッチのポート01に接続されており、そのHP KVMサーバ コンソール スイッチは、1番目のHP KVMサーバ コンソール スイッチのポート16にカスケード接続されています。
14	02		サーバは、デュアル16ポートHP KVMサーバ コンソール スイッチのポート02に接続されており、そのHP KVMサーバ コンソール スイッチは、1番目のHP KVMサーバ コンソール スイッチのポート14にカスケード接続されています。
01	04		サーバは、コンパクト製サーバ コンソール スイッチのポート04に接続されており、そのコンパクト製サーバ コンソール スイッチは、1番目のHP KVMサーバ コンソール スイッチのポート01にカスケード接続されています。
02			各サーバは拡張モジュールに接続されているため、同じポートを使用しています。2番目のポート番号が示されていないので、拡張モジュールはカスケード接続されていないことがわかります。
02			各サーバは拡張モジュールに接続されているため、同じポートを使用しています。2番目のポート番号が示されていないので、拡張モジュールはカスケード接続されていないことがわかります。
04			サーバは、1番目のコンソール スイッチに接続されており、インタフェース アダプタが接続されていないかまたはサーバの電源が切断されています。
05			サーバは、1番目のコンソール スイッチに接続されており稼働中です。

サーバステータス列の表示

HP KVMサーバ コンソール スイッチ システム内のサーバのステータスは、[Main (メイン)]ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) の右列のアイコンで示されます。

番号	説明
	インタフェース アダプタは、直接接続されているか、HP KVM サーバ コンソール スイッチまたは拡張モジュールを介してカスケード接続されているか、または電源が入っています。
	インタフェース アダプタが接続されていないか、またはサーバの電源が入っていません。
	インタフェース アダプタは、コンパクト製サーバ コンソール スイッチにカスケード接続されており、サーバが接続されていないかまたは電源が入っていません。
	インタフェース アダプタは、コンパクト製サーバ コンソール スイッチにカスケード接続されており、サーバが接続されているかまたは電源が入っています。
	インタフェース アダプタはアップグレード中です。
	コンソール スイッチがどのポートに接続されているかを示す記号です。
	ユーザが現在どのポートに接続して表示しているかを示す記号です。
	ユーザが接続しているが現在アクティブなセッションが行われていないポートがどのポートかを示す記号です。

サーバの選択

ユーザは、[Main (メイン)]ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)]ダイアログ ボックスへのアクセスを参照) から特定のサーバを選択できます。新しいサーバを選択すると、コンソール スイッチは選択されたサーバの設定に合わせてキーボード、ビデオ、およびマウスを再設定します。

サーバの[Name (ナマエ)]、[EID]、または[Port (ポート)]番号をダブルクリックします。

-または-

([Port (ポート)]ボタンをクリックして) サーバリストがポート順に表示されている場合は、[Port (ポート)]番号を入力してEnterキーを押します。

-または-

([Name (ナマエ)] ボタンまたは[EID] ボタンをクリックして) サーバ リストが [Name (ナマエ)] 順または[EID] 番号順に表示されている場合は、サーバの[Name (ナマエ)] または[EID] 番号を区別できる最初の数文字を入力して **Enter** キーを押します。

注: EIDは、インタフェース アダプタのケーブル ラベルに記載され、インタフェース アダプタに自動的に割り当てられている電子的なIDです。

前のサーバの選択

Print Scrn キーを押し、**Backspace** キーを押します。前の接続と現在の接続が切り替わります。

サーバからの切断

Print Scrn キーを押し、**Alt+0** キーを押します。

-または-

[Disconnect] をクリックします。

どのサーバも選択が解除され、Free状態になります。OSDのステータス フラグ (56 ページの「ステータス フラグの制御」を参照) に**Free**と表示されます。

ソフト スイッチ

ソフト スイッチは、ホットキーを使用してサーバを切り替える機能です。**Print Scrn** キーを押して、サーバの名前または番号の最初の数文字を入力することによって、サーバのソフト スイッチを実行することができます。OSDを**表示するまでの遅延時間** (56ページの「OSDを表示するまでの遅延時間の設定」を参照) を設定している場合は、指定時間内にこれらのキーを押すと、OSDは表示されません。

サーバのソフト スイッチの設定

1. [Main (メイン)] ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Setup (セッテイ)]、[Menu (メニュー)] の順にクリックします。[Menu (メニュー)] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [Screen Delay Time (スクリーン チェンジカン)] に、**Print Scrn** キーを押してから [Main (メイン)] ダイアログ ボックスを表示するまでの遅延時間 (秒) を入力します。

3. **[OK]**をクリックして、設定を保存します。

サーバのソフト スイッチ

サーバを選択するには、**Print Scrn**キーを押します。（**[Port (ポート)]**ボタンをクリックして) サーバ リストが**ポート**順に表示されている場合は、**[Port (ポート)]**番号を入力して**Enter**キーを押します。

-または-

(**[Name (ナマエ)]**ボタンまたは**[EID]**ボタンをクリックして) サーバ リストが**[Name (ナマエ)]**順または**[EID]**番号順に表示されている場合は、サーバの**[Name (ナマエ)]**または**[EID]**番号を区別できる最初の数文字を入力して**Enter**キーを押します。

前のサーバへのソフト スイッチ

Print Scrnキーを押し、**Backspace**キーを押します。前の接続と現在の接続が切り替わります。

OSD操作のためのキーの使用方法

キーストローク	機能
Print Scrn	OSDの [Main (メイン)] ダイアログ ボックスを開きます。 Print Scrn キーを2度押すと、現在選択されているデバイスに Print Scrn キーストロークが送信されます。
F1	現在のダイアログ ボックスの ヘルプ 画面を開きます。
Esc	変更を保存せずに現在のダイアログ ボックスを閉じ、1つ前のダイアログ ボックスに戻ります。 [Main (メイン)] ダイアログ ボックスでは、OSDが閉じ、選択したサーバに戻ります。メッセージ ボックスでは、ポップアップ ボックスが閉じ、現在のダイアログ ボックスに戻ります。
Alt	他のキーと組み合わせて使用すると、ダイアログ ボックスを開き、オプションを選択し、動作を実行します。
Alt+X	現在のダイアログ ボックスを閉じ、前のダイアログ ボックスに戻ります。
Alt+0	[OK] ボタンを選択し、前のダイアログ ボックスに戻ります。
Enter	[Main (メイン)] ダイアログ ボックスでのコンソール スイッチ操作を完了し、OSDを終了します。
シングルクリック、Enter	テキスト ボックスで、編集するテキストを選択し、左右の矢印キーでカーソルを移動できます。もう一度 Enter キーを押すと、編集モードが終了します。
Print Scrn、BackSpace	他のキーストロークを入力していない場合、以前の選択に戻します。
Print Scrn、Alt+0	ユーザをただちにサーバから切り離します。すべてのサーバの選択が解除されます。ステータス フラグ には Free が表示されます（これはキーボードの 0 に適用され、キーボードの 0 には適用されません）。
Print Scrn、Pause	ただちにスクリーン セーバ モードに入り、その特定のコンソールへのアクセスを防止します（パスワードで保護されている場合）。
上/下方向の矢印	カーソルを行間で上下に移動します。
右/左方向の矢印	カーソルを列間で左右に移動します。テキスト ボックスの編集中は、列内でカーソルを移動します。
Page Up/Page Down	[Name (ナマエ)] リストと [Port (ポート)] リストで、ページ間を上下に移動します。
Home/End	リストの先頭や末尾にカーソルを移動します。
BackSpace	テキスト ボックス内で文字を消去します。
Delete	[Scan (スキャン)] ダイアログ ボックスで現在の選択を削除したり、テキスト ボックスで文字を削除します。

キーストローク	機能
Shift+Delete	スキャン リストの編集集中に、現在の選択以下のすべての行を削除します。
数字	キーボードまたはキーパッドから数字を追加します。
Caps Lock	ユーザを無効にします（小文字を入力するには、Shiftキーを使用します）。

[Setup (セッテイ)] ダイアログ ボックスの設定

OSDの[Setup (セッテイ)] ダイアログ ボックス (49ページの「[Setup (セッテイ)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、HP KVMサーバ コンソール スイッチを設定したり、日常的なタスクを管理したりすることができます。サーバを固有の名前で識別できるようにするには、コンソール スイッチの初期設定時に[Names (ナマエ)] をクリックします。

[Setup (セッテイ)] ダイアログ ボックスへのアクセス

[Main (メイン)] ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Setup (セッテイ)] をクリックします。[Setup (セッテイ)] ダイアログ ボックスが表示されます。



サーバに関する日常的なタスクの管理

ボタン	機能
Menu (メニュー)	サーバ リストの表示順を[Port (ポート)]番号順、[EID]番号順、または[Name (ナマエ)]順に変更します。 Print Scrnキーを押してから[Main (メイン)]ダイアログ ボックスを表示するまでの遅延時間を変更します。
Flag (フラグ)	ステータス フラグの表示、タイミング、色、および位置を変更します。
Broadcast (ブロードキャスト)	キーボードとマウスで、複数のサーバを同時に制御します。
Scan (スキャン)	最大16台のサーバについて、カスタム スキャン パターンを設定します。
Security (セキュリティ)	サーバ アクセスを制限するパスワードを設定し、スクリーン セーバを有効にします。有効なパスワードは、5~15文字の英数字です。使用できる文字は、a~z、A~Z、0~9、スペース、ハイフンです。 スクリーン セーバ モードを有効にします。
Switch	スイッチ モードをプリエンティブとコーオペラティブの間で切り替えます。
Devices (デバイス)	サーバや他のコンソール スイッチなど、HP KVMサーバ コンソール スイッチに接続されているデバイス タイプを指定します。
Names (ナマエ)	サーバの固有の名前を指定します。

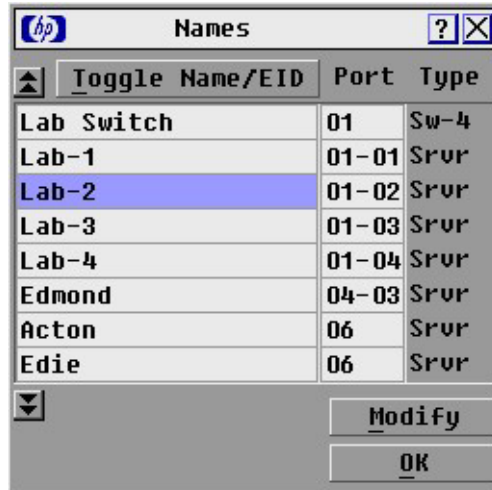
サーバ名の割り当て

各サーバをポート番号ではなくサーバ名によって識別するには、[Names (ナマエ)]ダイアログ ボックスを使用します (50ページの「[Names (ナマエ)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照)。[Names (ナマエ)]リストは常にポート順にソートされ、サーバ名はインタフェース アダプタ (21ページの「インタフェース アダプタの取り付け」を参照) に保存されます。インタフェース アダプタまたはサーバを別のスイッチ ポートに移動すると、名前と設定がHP KVMサーバ コンソール スイッチに認識されます。

[Names (ナマエ)]ダイアログ ボックスへのアクセス

[Main (メイン)]ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Setup (セッテイ)]、[Names (ナマエ)]の順にクリックします。[Names (ナマエ)]ダイアログ ボックスが表示されます。

注：サーバ リストが最後に表示されてから変化した場合、リストが自動的に更新されるときに、マウス カーソルが砂時計になります。リストの更新が完了するまで、マウスやキーボードの入力は受け付けられません。



Toggle Name/EID	Port	Type
Lab Switch	01	Sw-4
Lab-1	01-01	Srvr
Lab-2	01-02	Srvr
Lab-3	01-03	Srvr
Lab-4	01-04	Srvr
Edmond	04-03	Srvr
Acton	06	Srvr
Edie	06	Srvr

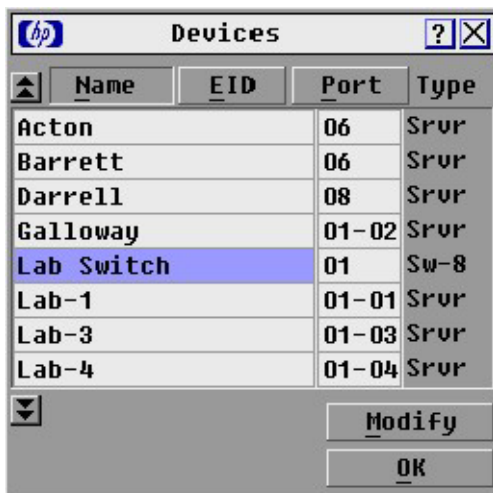
デバイス タイプの割り当て

HP KVMサーバ コンソール スイッチにカスケード接続されているコンパクト製サーバ コンソール スイッチを、HP KVMサーバ コンソール スイッチが自動検出する際に、カスケード接続されているコンパクト製サーバ コンソール スイッチ上のポート数を、**[Devices (デバイス)]ダイアログ ボックス** (51ページの「**[Devices (デバイス)]ダイアログ ボックスへのアクセス**」を参照) を使用して指定する必要があります。

[Devices (デバイス)]ダイアログ ボックスへのアクセス

[Main (メイン)]ダイアログ ボックス (41ページの「**[Main (メイン)]ダイアログ ボックスへのアクセスを参照**」から、**[Setup (セッテイ)]**、**[Devices (デバイス)]**の順にクリックします。**[Devices (デバイス)]ダイアログ ボックス**が表示されます。

注：[Modify (ヘンコウ)]ボタンは、設定可能なコンパクト製サーバ コンソール スイッチを選択した場合にだけ使用できます。



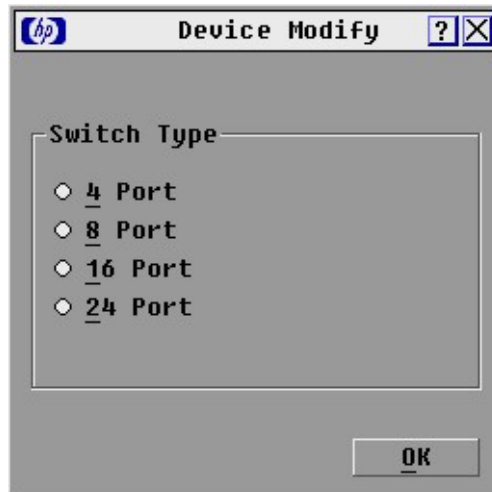
HP KVMサーバ コンソール スイッチがカスケード接続されたHP KVMサーバ コンソール スイッチを検出すると、そのHP KVMサーバ コンソール スイッチに各サーバを収容するためにポート番号が自動的に変更されます。たとえば、そのHP KVMサーバ コンソール スイッチがポート02に接続されている場合、スイッチ ポートは02としてリストされ、そのスイッチに接続されている各サーバには02-01、02-02のように順番に番号が付きます。

ただし、HP KVMサーバ コンソール スイッチがカスケード接続されたコンパクト製サーバ コンソール スイッチを検出した場合は、ユーザが、[Device Modify (デバイスノ シュウセイ)]ダイアログ ボックスを使用してコンパクト製サーバ コンソール スイッチのポート数を選択する必要があります。

デバイス タイプの変更

1. [Devices (デバイス)]ダイアログ ボックス (51ページの「[Devices (デバイス)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) で、[Port (ポート)]を選択します。

2. **[Modify (ヘンコウ)]** をクリックします。**[Device Modify (デバイスノ シュウセイ)]** ダイアログ ボックスが表示されます。

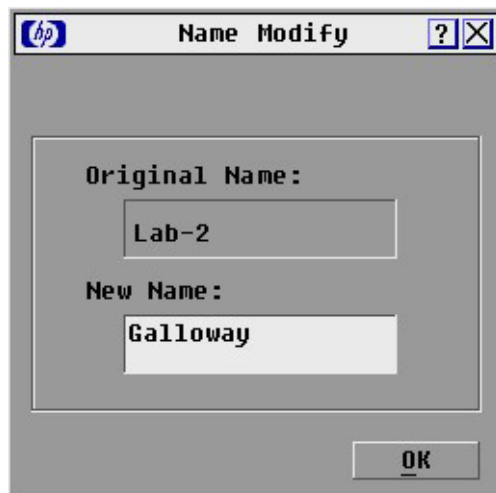


3. カスケード接続されたコンパクト製サーバ コンソール スイッチがサポートするポート数を選択します。
 4. **[OK]** をクリックします。
 5. デバイス タイプを割り当てたいポートごとに、手順2~4を繰り返します。
 6. **[Devices (デバイス)]** ダイアログ ボックスで**[OK]** をクリックして設定を保存します。
- または-
- [X]** をクリックして終了するか、または**Esc** キーを押して設定を保存せずに終了します。

注 : **[Device Modify (デバイスノ シュウセイ)]** ダイアログ ボックスで行った変更は、**[Devices (デバイス)]** ダイアログ ボックスで**[OK]** をクリックするまで保存されません。

サーバ名の割り当て

1. [Names (ナマエ)]ダイアログ ボックス (50ページの「[Names (ナマエ)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) で、名前またはポート番号を選択し、[Modify (ヘンコウ)]をクリックします。[Name Modify (ナマエシュウセイ)]ダイアログ ボックスが表示されます。



2. [New Name (アタラシイ ナマエ)]フィールドに名前を入力します。名前の長さは、1~15文字です。使用できる文字は、a~z、A~Z、0~9、スペース、ハイフンです。
 3. [OK]をクリックして、新しい名前を[Names (ナマエ)]ダイアログ ボックスに転送します。
 4. システム内の各サーバについて、手順3~5を繰り返します。
 5. [OK]をクリックして設定を保存します。
- または-
- [X]をクリックして終了するか、**Esc**キーを押して変更を保存せずに終了します。

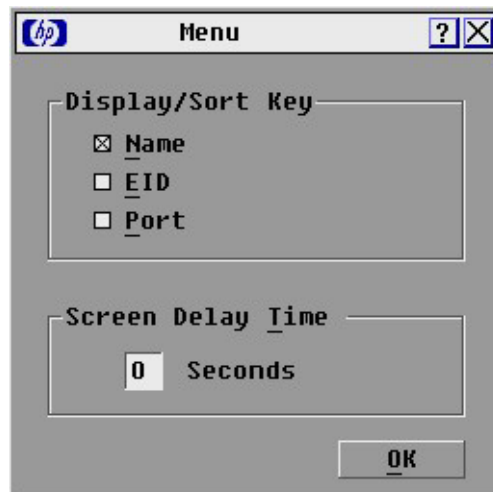
注: [Name Modify (ナマエシュウセイ)]ダイアログ ボックスで行った変更は、[Names (ナマエ)]ダイアログ ボックスで[OK]をクリックするまで保存されません。

表示動作の変更

[Menu (メニュー)] ダイアログ ボックス (55ページの「[Menu (メニュー)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、サーバの表示順、HP KVMサーバ コンソール スイッチの接続モード、およびPrint Scrnキーを押してからOSDを表示するまでの時間を変更できます。表示順の設定によって、[Main (メイン)]、[Devices (デバイス)]、[Broadcast (ブロードキャスト)] ダイアログ ボックスなどの画面でのサーバの表示方法が変更されます。

[Menu (メニュー)] ダイアログ ボックスへのアクセス

[Main (メイン)] ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Setup (セッテイ)]、[Menu (メニュー)] の順にクリックします。[Menu (メニュー)] ダイアログ ボックスが表示されます。



サーバの表示順の選択

1. [Menu (メニュー)] ダイアログ ボックス (55ページの「[Menu (メニュー)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Name (ナマエ)] を選択して、サーバ名をアルファベット順に表示します。

-または-

[EID] を選択して、サーバをインタフェース アダプタID番号順に表示します。

-または-

[Port (ポート)]を選択して、サーバをポート番号順に表示します。

2. [OK]をクリックして、設定を保存します。

-または-

[X]をクリックして終了するか、**Esc**キーを押して変更を保存せずに終了します。

OSDを表示するまでの遅延時間の設定

OSDを表示するまでの遅延時間を設定すると、OSDを表示せずにソフトスイッチ（46ページの「ソフトスイッチ」を参照）を実行できます。



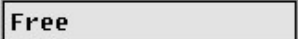
1. [Main (メイン)]ダイアログボックス（41ページの「[Main (メイン)]ダイアログボックスへのアクセス」を参照）から、**Print Scrn**キーを押してからOSDを表示するまでの遅延時間（0～9秒）を入力します。**0**を入力すると、OSDがただちに表示されます。
2. [OK]をクリックして、設定を保存します。


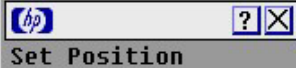
-または-

[X]をクリックして終了するか、**Esc**キーを押して変更を保存せずに終了します。

ステータス フラグの制御

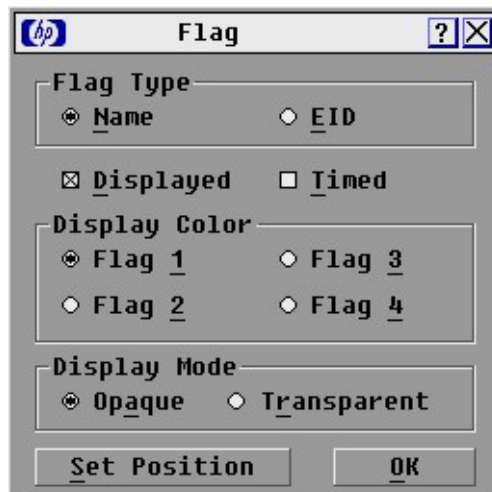
ステータス フラグはデスクトップに表示され、選択したサーバの[Name (ナマエ)]や[EID]番号または特定のポートのステータスを表示します。フラグの表示（サーバの[Name (ナマエ)]または[EID]番号）、フラグの色、不透明さ、表示時間、および位置を変更するには、[Flag (フラグ)]ダイアログボックス（57ページの「[Flag (フラグ)]ダイアログボックスへのアクセス」を参照）を使用します。

フラグ	説明
	[Name (ナマエ)]によるフラグタイプ
	[EID]番号によるフラグタイプ
	ユーザがすべてのシステムから切断されていることを示すフラグ

フラグ	説明
	ブロードキャストが有効になっていることを示すフラグ
	フラグの位置を設定するためのコントロール

[Flag (フラグ)]ダイアログ ボックスへのアクセス

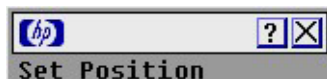
[Main (メイン)]ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Setup (セッテイ)]、[Flag (フラグ)]の順にクリックします。[Flag (フラグ)]ダイアログ ボックスが表示されます。



ステータス フラグの表示

1. [Flag (フラグ)]ダイアログ ボックス (57ページの「[Flag (フラグ)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Name (ナマエ)]または[EID]を選択して、表示する情報を決定します。
2. 常にフラグを表示する[Displayed (ヒヨウジ)]またはソフト スイッチの実行後にフラグを5秒間だけ表示する[Timed (タイム)]を選択します。
3. [Display Color (ヒヨウジシヨク)]で、フラグの色を選択します。

4. **[Display Mode (ヒョウジ モード)]**で、フラグを不透明にする**[Opaque (フトウメイ)]**またはフラグを透明にする**[Transparent (トウメイ)]**を選択します。
5. 以下の手順で、デスクトップでのステータス フラグの位置を指定します。
 - a. **[Set Position (イチ セツテイ)]**をクリックして、**[Position Flag (イチ セツテイ)]**画面を表示します。
 - b. タイトルバーをクリックして、希望する位置までドラッグします。
 - c. 右ボタンをクリックして、**[Flag (フラグ)]**ダイアログボックスに戻ります。



6. **[OK]**をクリックして設定を保存します。

-または-

[X]をクリックして終了するか、**Esc**キーを押して変更を保存せずに終了します。

注：フラグ位置の変更は、**[Flag (フラグ)]**ダイアログボックス (57ページ)の「**[Flag (フラグ)]**ダイアログボックスへのアクセス」を参照)で**[OK]**をクリックするまで保存されません。

サーバへのブロードキャスト

アナログ ユーザは、システム内の複数のサーバを同時に制御して、選択したすべてのサーバに同一入力を受信させることができます。ブロードキャストを受信するサーバごとに、キーストロークのブロードキャストやマウスの動きをブロードキャストすることを個別指定できます。

注：ブロードキャストの実行中、ブロードキャスト サーバに接続しているユーザは切断され、サーバに接続できなくなります。

注：拡張モジュール (23ページの「拡張モジュールの取り付け」を参照)接続あたり1台のサーバだけにブロードキャストできます。

キーストロークのブロードキャスト

ブロードキャストを受信するすべてのサーバがキーストロークを同様に解釈するには、キーボードの状態が同一でなければなりません。具体的には、**Caps Lock**と**Num Lock**の状態がすべてのキーボードで同じでなければなりません。HP KVMサーバコンソールスイッチは選択されているサーバに同時にキーストロークを送信しようと試みますが、一部のサーバによって拒否され、送信が遅れる場合があります。

マウスの動きのブロードキャスト

マウスが正しく動作するには、すべてのシステムのマウス ドライバ、デスクトップ（たとえば、アイコンの位置）、およびビデオ解像度が同一でなければなりません。さらに、マウスは、すべての画面で正確に同じ位置になければなりません。これらの条件を満たすことは非常に困難であるため、マウスの動きを複数のシステムにブロードキャストすると予測できない結果になる場合があります。

[Broadcast (ブロードキャスト)] ダイアログ ボックスへのアクセス

[Main (メイン)] ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Setup (セッテイ)]、[Broadcast (ブロードキャスト)] の順にクリックします。[Broadcast (ブロードキャスト)] ダイアログ ボックスが表示されます。



選択されているサーバへのブロードキャスト

1. [Broadcast (ブロードキャスト)] ダイアログ ボックス (59ページの「[Broadcast (ブロードキャスト)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、ブロードキャスト コマンドを受信するサーバについて、キーボード チェックボックスとマウス チェックボックスを選択します。

-または-

上向きまたは下向き矢印キーを押して、目的のサーバまでカーソルを移動します。Alt+Kキーを押してキーボードチェックボックスを選択し、Alt+Mキーを押してマウスチェックボックスを選択します。他のサーバについて、この手順を繰り返します。

2. [OK]をクリックして設定を保存し、[Setup (セッテイ)]ダイアログボックスに戻ります。
3. [X]をクリックするかEscキーを押して、[Main (メイン)]ダイアログボックスに戻ります。
4. [Main (メイン)]ダイアログボックスで、[Commands (コマンド)]ダイアログボックス (69ページの「[Commands (コマンド)]ダイアログボックスへのアクセス」を参照)をクリックし、[Broadcast Enable (ブロードキャスト ユウコウカ)]チェックボックスを選択してブロードキャストを有効にします。
5. ユーザステーションで、ブロードキャストしたい情報を入力したり、マウスの動きを実行したりします。

[Broadcast (ブロードキャスト)]ダイアログボックスの起動

ブロードキャストを有効または無効にするには、[Commands (コマンド)]ダイアログボックス (69ページの「[Commands (コマンド)]ダイアログボックスへのアクセス」を参照)から、[Broadcast Enable (ブロードキャスト ユウコウカ)]を選択または選択解除します。

スキャンパターンの設定

スキャンモード (62ページの「スキャンモードの起動」を参照)では、HP KVMサーバコンソールスイッチは自動的にポート (サーバ)を順番にスキャンします。HP KVMサーバコンソールスイッチに接続されているすべてのサーバのリストから最大16台のサーバを選択できます。適切なボタンをクリックすることによって、サーバの[Name (ナマエ)]順または[EID]番号順でリストを表示することができます。スキャンリストに追加する各サーバの横のチェックボックスを選択して、スキャンリストを作成してください。スキャンリストを作成しても、スキャンモードは開始されません。[Commands (コマンド)]ダイアログボックス (69ページの「[Commands (コマンド)]ダイアログボックスへのアクセス」を参照)の[Scan Enable (スキャン ユウコウカ)]チェックボックスを使用してスキャンモードを有効にする必要があります。

[Scan (スキャン)] ダイアログ ボックスへのアクセス

[Main (メイン)] ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Setup (セッテイ)]、[Scan (スキャン)] の順にクリックします。[Scan (スキャン)] ダイアログ ボックスを表示します。



[Scan (スキャン)] リストへのサーバの追加

1. [Scan (スキャン)] ダイアログ ボックス (62ページの「スキャン モードの起動」を参照) から、スキャンリストに追加するサーバの横のチェックボックスを選択します。
-または-
サーバ名またはポートをダブルクリックします。
-または-
Altキーとスキャンしたいサーバの番号を押します。最大16台のサーバを選択できます。
2. [Scan Time (スキャン ジカン)] ボックスで、サーバを順番にスキャンする時間間隔 (3~99秒) を入力します。
3. [OK] をクリックして設定を保存します。
-または-
[Clear (クリア)] をクリックして、スキャン リストからすべてのサーバを削除します。

重要： スキャン リストに追加するサーバの横のチェックボックスを選択するとスキャン リストが作成されますが、スキャン リストを作成しても、スキャン モードは開始されません。スキャン モードを開始するには、**[Commands (コマンド)]** ダイアログ ボックスの**[Scan Enable (スキャン ユウコウカ)]** チェックボックスを使用してスキャン モードを有効にする必要があります。

注： **[Device Modify (デバイスノ シュウセイ)]** ダイアログ ボックスからサーバを削除すると、この変更がカスタム スキャン パターンに影響する場合があります。

[Scan (スキャン)] リストからのサーバの削除

1. **[Scan (スキャン)]** ダイアログ ボックス (62ページの「スキャン モードの起動」を参照) で、削除したいサーバをクリックします。
-または-
サーバ名またはポートをダブルクリックします。
-または-
[Clear (クリア)] をクリックしてスキャン リストからすべてのサーバを削除します。
2. **[OK]** をクリックして、設定を保存します。

スキャン モードの起動

1. **[Commands (コマンド)]** ダイアログ ボックス (69ページの「**[Commands (コマンド)]** ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、**[Scan Enable (スキャン ユウコウカ)]** を選択します。
2. **[X]** をクリックして**[Commands (コマンド)]** ダイアログ ボックスを閉じます。
注： スキャンは、**[Scan (スキャン)]** をクリックするとすぐに開始されます。

スキャン モードの停止

サーバを選択します (OSDが開いている場合)。

-または-

マウスを動かすか、任意のキーを押します (OSDが開いていない場合)。現在選択されているサーバでスキャン モードが停止します。

-または-

[Commands (コマンド)] ダイアログ ボックス (69ページの「[Commands (コマンド)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) で、[Scan Enable (スキャン ユウ コウカ)] の選択を解除します。ローカル ポートで動作中のすべての接続が切断されます。

ローカル コンソール スイッチのセキュリティの設定

OSDを使用すると、ローカル ポート コンソールでセキュリティを設定できます。指定時間の経過後もHP KVMサーバ コンソール スイッチが使用されていない場合に起動するスクリーン セーバ モード (66ページの「パスワード保護のないスクリーン セーバ モードの起動」を参照) を確立できます。スクリーン セーバ モードに入ると、任意のキーを押すか、マウスを動かすまで、HP KVMサーバ コンソール スイッチがロックされます。スクリーン セーバ モードを出たら、パスワードを入力してログインできます。

[Security (セキュリティ)] ダイアログ ボックス (64ページの「[Security (セキュリティ)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) を使用すると、HP KVMサーバ コンソール スイッチをパスワードで保護したり、パスワードを設定/変更したり、スクリーンセーバを有効にしたりすることができます。

注: パスワードがすでに設定されている場合は、パスワードを入力しないと、[Security (セキュリティ)] ダイアログ ボックスにアクセスできません。

[Security (セキュリティ)] ダイアログ ボックスへのアクセス

[Main (メイン)] ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Setup (セッテイ)]、[Security (セキュリティ)] の順にクリックします。[Security (セキュリティ)] ダイアログ ボックスが表示されます。



パスワードの変更

1. [Security (セキュリティ)] ダイアログ ボックス (64ページの「[Security (セキュリティ)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[New (アタラシイ パスワード)] フィールドを1回クリックして**Enter**キーを押す (OSDが開いていない場合) か、[New (アタラシイ パスワード)] フィールドをダブルクリックします。
2. [New (アタラシイ パスワード)] フィールドに新しいパスワードを入力し、**Enter**キーを押します。
3. [Repeat (カクニンノ パスワード)] フィールドにパスワードを再入力し、**Enter**キーを押します。
4. [OK]をクリックしてパスワードを変更します。

重要: 有効なパスワードは、5～15文字の英数字です。使用できる文字は、a～z、A～Z、0～9、スペース、ハイフンです。

パスワード保護の設定

1. [Security (セキュリティ)] ダイアログ ボックス (64ページの「[Security (セキュリティ)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、上記の手順に従ってパスワードを設定します。
2. [Enable Screen Saver (スクリーンセーバ ユウコウカ)] を選択します。
3. [Time Delay (マチジカン)] に、パスワード保護とスクリーンセーバ機能を起動するまでの時間 (1~99分) を入力します。
4. モニタがENERGY STAR[®] 準拠の場合は[Mode (モード)] に[Energy (エナジー)] を選択し、そうでない場合は[Screen (スクリーン)] を選択します。
5. (オプション) [Test (テスト)] をクリックして、スクリーンセーバテストを起動します。テストは10秒で終了し、[Security (セキュリティ)] ダイアログ ボックスに戻ります。
6. [OK] をクリックして、設定を保存します。



注意: モニタがENERGY STAR[®] 準拠でない場合、エナジーモードを使用するとモニタが破損する場合があります。

KVMサーバ コンソール スイッチへのログオン

1. 任意のキーを押すか、マウスを動かします。[Password (パスワード)] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. パスワードを入力し、[OK] をクリックします。
3. **Print Scrn** キーを押します。

パスワード保護の削除

1. [Main (メイン)] ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Setup (セッテイ)]、[Security (セキュリティ)] の順にクリックします。[Password (パスワード)] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. パスワードを入力し、[OK] をクリックします。
3. [Security (セキュリティ)] ダイアログ ボックスで、[New (アタラシイ パスワード)] フィールドをクリックし、**Enter** キーを押します。

-または-

[New (アタラシイ パスワード)]フィールドをダブルクリックし、[New (アタラシイ パスワード)]フィールドを空白のまま残して、**Enter**キーを押します。

4. [Repeat (カクニンノ パスワード)]フィールドをクリックし、**Enter**キーを押します。

-または-

[Repeat (カクニンノ パスワード)]フィールドをダブルクリックし、[Repeat (カクニンノ パスワード)]フィールドを空白のまま残して、**Enter**キーを押します。

5. パスワードを削除したい場合は、[OK]をクリックします。

スクリーンセーバモードの終了

スクリーンセーバモードを終了するには、任意のキーを押すかまたはマウスを動かします。[Main (メイン)]ダイアログボックス (41ページの「[Main (メイン)]ダイアログボックスへのアクセス」を参照)が表示されます。

パスワード保護のないスクリーンセーバモードの起動

1. ご使用のHP KVMサーバコンソールスイッチで、[Security (セキュリティ)]ダイアログボックス (64ページの「[Security (セキュリティ)]ダイアログボックスへのアクセス」を参照)にアクセスする際にパスワードの入力を求められない場合は、手順2に進みます。

-または-

ご使用のHP KVMサーバコンソールスイッチがパスワードで保護されている場合は、上記の手順を参照して、手順2に進みます。

2. [Enable Screen Saver (スクリーンセーバユウコウカ)]を選択します。
3. [Inactivity Time (マチジカン)]に、スクリーンセーバを起動するまでの時間 (1~99分)を入力します。
4. モニタがENERGY STAR[®]準拠の場合は[Energy (エネルギー)]を選択し、そうでない場合は[Screen (スクリーン)]を選択します。
5. (オプション) [Test (テスト)]をクリックして、スクリーンセーバテストを起動します。テストは10秒で終了し、[Security (セキュリティ)]ダイアログボックスに戻ります。
6. [OK]をクリックして、設定を保存します。



注意：モニタがENERGY STAR[®]準拠でない場合、エナジー モードを使用するとモニタが破損する場合があります。

注：スクリーン セーブ モードが有効になってユーザがサーバから切断されると、どのサーバも選択されていない状態になります。ステータス フラグには**Free**が表示されます。

スクリーン セーブの無効化

1. [Security (セキュリティ)]ダイアログ ボックス (64ページの「[Security (セキュリティ)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Enable Screen Saver (スクリーンセーブ ユウコウカ)]の選択を解除します。
2. [OK]をクリックして、設定を保存します。

スクリーン セーブをただちに起動するには、**Print Scrn**キーを押して、**Pause**キーを押します。このコマンドは、ユーザがサーバに接続しているときにだけ動作します。

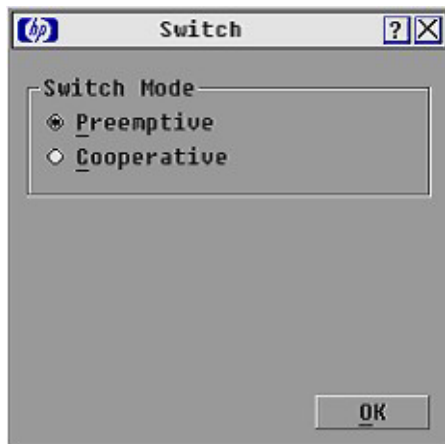
スイッチ モードの変更

接続されているサーバには、次の2とおりの方法で接続できます。

- プリエンプティブ - ユーザは、任意のサーバをいつでも選択できます。別のユーザから要求があると、現在のユーザは警告なしで切断されます。
- コーオペラティブ - 現在のユーザの接続を維持します。別のユーザが接続を要求しても、現在のユーザが切断されることはありません。

[Switch]ダイアログ ボックスへのアクセス

1. [Main (メイン)]ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Setup (セッテイ)]、[Switch]の順にクリックします。[Switch]ダイアログ ボックスが表示されます。



2. [Preemptive]または[Cooperative]を選択します。
 3. [OK]をクリックして設定を保存します。
- または-
- [X]をクリックして終了するか、**Esc**キーを押して変更を保存せずに終了します。

OSDによるサーバタスクの管理

OSDを使用して、[Commands (コマンド)]ダイアログ ボックス (69ページの「[Commands (コマンド)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) からHP KVMサーバ コンソール スイッチ システムを管理できます。これには、スキャンモード (62ページの「スキャン モードの起動」を参照) およびブロードキャストモード (60ページの「[Broadcast (ブロードキャスト)]ダイアログ ボックスの起動」を参照) の起動、ユーザ接続の管理、診断の実行、ファームウェアの更新などが含まれます。

機能	目的
Broadcast Enable (ブロードキャスト ユウコウカ)	サーバへのブロードキャストを開始します。[Setup (セッテイ)]ダイアログ ボックスでブロードキャスト用のサーバリストを設定してください。
Scan Enable (スキャン ユウコウカ)	サーバのスキャンを開始します。[Setup (セッテイ)]ダイアログ ボックスでスキャン用のリストを設定してください。
IA Status (IAステータス)	複数のインタフェース アダプタを同時にアップグレードします。
Display Versions (バージョンノ ヒョウジ)	コンソール スイッチのバージョン情報や各インタフェース アダプタのファームウェア情報を表示します。また、ユーザが、個々のインタフェース アダプタ ファームウェアをアップグレードできるようにします。
Run Diagnostics (シندانノ ジッコウ)	システムの整合性を検査します。これには、メモリ、ファームウェアのCRC、通信インタフェース、スイッチ コントローラ、ローカル/リモート ビデオ、インタフェース アダプタなどが含まれます。

[Commands (コマンド)]ダイアログ ボックスへのアクセス

[Main (メイン)]ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Commands (コマンド)]をクリックします。[Commands (コマンド)]ダイアログ ボックスが表示されます。



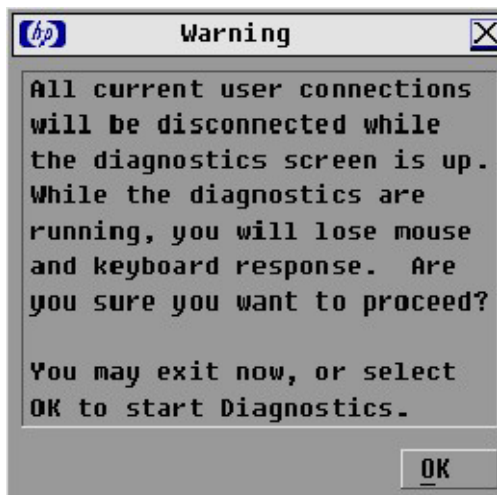
システム診断の実行

[Run Diagnostics (シンダンノ ジッコウ)] (72ページの「[Run Diagnostics (シンダンノ ジッコウ)]の起動」を参照) をクリックすると、各システム コントローラのメインボード機能サブシステム (メモリ、ボード内通信、HP KVMサーバ コンソール スイッチ制御、およびビデオチャネル) をチェックするコマンドが実行されます。

テスト	説明
Memory Test (メモリー テスト)	メイン ボードのRAMの状態をレポートします。このインジケータは、システムの再起動時に実行されたメモリ テストの結果を表示します。
Firmware CRCs (ファームウェア CRC)	各ファームウェア イメージのCRC値を比較し、その結果を期待値と比較することによって、システムのフラッシュ メモリに保存されている現在のファームウェア イメージを検査します。
Comm Interfaces (ツウシン インターフェイス)	通信コントローラへの問い合わせと基本レジスタ レベル テストの実行によって、ボード内通信サブシステムがアクセス可能で正常に機能することを検査します。
Switch Controller (スイッチ コントローラー)	スイッチ マトリクス コントローラへの問い合わせと基本レジスタ レベル テストの実行によって、スイッチ マトリクス コントローラがアクセス可能で正常に機能することを検査します。
Local Video (ローカル ビデオ)	すべてのビデオ チャネル サブシステムがアクセス可能であり、正常に機能し、基本レジスタ レベル テストを実行することを検査します。
On-line IAs (オンラインIA)	現在接続され、電源が入っているインタフェース アダプタの総数が示されます。
Off-line IAs (オフラインIA)	過去に正常に接続されており、現在は電源が入っていないと判断されるインタフェース アダプタの数が示されます。
Suspect IAs (ギモンノアルIA)	検出されるが、接続に使用できないか、pingテストでパケットが落ちたインタフェース アダプタの数を示します。

[Run Diagnostics (シンダンノ ジッコウ)]の起動

1. [Main (メイン)]ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Commands (コマンド)]、[Run Diagnostics (シンダンノ ジッコウ)]の順にクリックします。すべてのユーザが切断されることを示す警告メッセージが表示されます。



2. [OK]をクリックして開始します。すべてのユーザが切断され、[Diagnostics (シンダン)]ダイアログ ボックスが表示されます。

-または-

[X]をクリックするか**Esc**キーを押して、診断テストを実行せずにダイアログボックスを終了します。



3. 各テストが終了すると、合格または不合格インジケータが表示されます。
テストの合格は緑色の丸で示され、テストの不合格は赤色のXで示されます。最後のテストのインジケータが表示されると、テストは完了です。
4. (オプション) オフラインのインタフェースアダプタがある場合は、**[Clear (クリア)]** ボタンをクリックしてそれらをリストから削除することができます。
5. (オプション) 異常なインタフェースアダプタがある場合は、**[Display (ヒョウジ)]** ボタンをクリックできます。**[Suspect Interface Adapter (ギモンノアル IA)]** ダイアログボックスが表示されます。

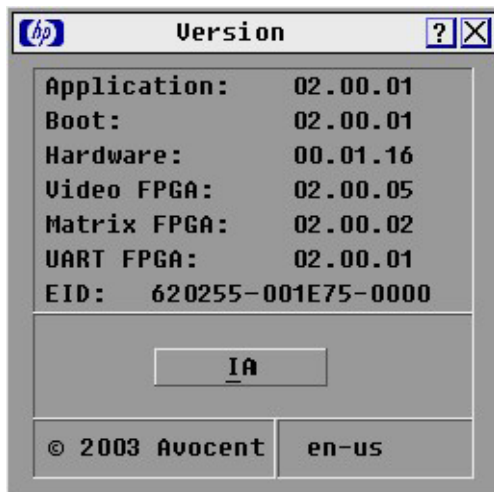
バージョン情報の表示

[Version (バージョン)] ダイアログボックス (74ページの「**[Version (バージョン)]** ダイアログボックスへのアクセス」を参照) を使用すると、現在選択されているサーバのキーボードとマウス情報のほか、HP KVMサーバ コンソール スイッチのバージョンを表示できます。

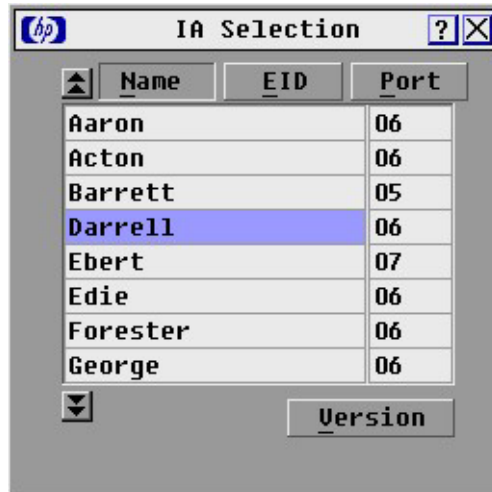
[Version (バージョン)] ダイアログ ボックスへのアクセス

注：HPのサービス窓口にお問い合わせるときは、アプリケーションのバージョン番号を用意してください。

1. [Main (メイン)] ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Commands (コマンド)]、[Version (バージョン)] の順にクリックすると、[Version (バージョン)] ダイアログ ボックスが表示されます。ボックスの上半分に、HP KVMサーバ コンソール スイッチ内のサブシステム バージョンが表示されます。



2. [IA]をクリックして[IA Selection (IAセンタク)]ダイアログボックスにアクセスし、個々のインタフェース アダプタ ケーブルのバージョン情報を表示します。
[IA Selection (IAセンタク)]ダイアログボックスが表示されます。



3. 選択されているインタフェース アダプタ ケーブルを表示するには、[Version (バージョン)]をクリックします。[IA Version (IAバージョン)]ダイアログボックスが表示されます。



4. [X]をクリックして終了します。

ファームウェアの更新

この項の目次

コンソール スイッチ ファームウェアの更新.....	77
インタフェース アダプタ ファームウェアの同時更新.....	78
インタフェース アダプタ ファームウェアの個々のアップグレード.....	79

コンソール スイッチ ファームウェアの更新

注：ファームウェアのアップグレードに使用するPCやラップトップPCでは、Microsoft® Windows NT®以上が動作している必要があります。

1. シリアル ダウンロード ケーブルを、PC（Windows®が動作している必要があります）のシリアル ダウンロード コネクタおよびHP KVMサーバ コンソール スイッチのリア パネルのシリアル ダウンロード コネクタ（17ページの「コンポーネント」を参照）に接続します。
2. ファームウェア ファイルが保存されているフォルダにアクセスして、WUpdateHP.exeファイルを実行します。

注：3つの.binファイルは、WUpdateHP.exeファイルと同じフォルダに配置する必要があります。

3. インストールする言語を選択し、HP KVMサーバ コンソール スイッチが接続されているサーバのシリアル ポート番号を入力します。
4. **[Load]**をクリックして、更新プロセスを開始します。

この更新プロセスでは、3つの更新（アプリケーション ファームウェアのロード、グラフィックス チップのロード、およびシステム データのロード）が実行されます。これら3つの更新をそれぞれ、進行状況バーで確認してください。これらすべてのアップデートがロードされるまで、ファームウェアの更新は完了しません。ファームウェアが更新されると、「更新の完了」を示すメッセージが表示されます。

5. **[Done]**をクリックします。

インタフェース アダプタ ファームウェアの同時更新

1. [Main (メイン)] ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Commands (コマンド)]、[IA Status (IAステータス)]の順にクリックします。[IA Status (IAステータス)] ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [PS/2]または[USB]を選択し、[Upgrade (アップグレード)]をクリックします。[IA Upgrade (IAノ アップグレード)] ダイアログ ボックスが表示されます。

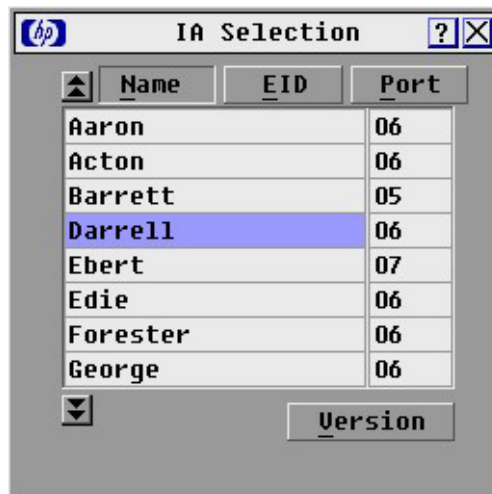


3. [OK]をクリックして、設定を保存します。
4. **Esc**キーを押して、[Main (メイン)] ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)] ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照)に戻ります。アップグレードの進行中、OSDのインジケータが黄色で表示されます。アップグレードが完了すると、OSDのインジケータが赤色に変化し、緑色に変化します。

注: 続行する前に、OSDのインジケータが緑色に変化するまで待ってください。

インタフェース アダプタ ファームウェアの個々のアップグレード

1. [Main (メイン)]ダイアログ ボックス (41ページの「[Main (メイン)]ダイアログ ボックスへのアクセス」を参照) から、[Commands (コマンド)]、[Version (バージョン)]の順にクリックします。[Version (バージョン)]ダイアログ ボックスが表示されます。
2. [IA]をクリックします。[IA Selection (IAセンタク)]ダイアログ ボックスが表示されます。



3. 個々のインタフェース アダプタを選択し、[Version (バージョン)]をクリックします。[IA Version (IAバージョン)]ダイアログ ボックスが表示されます。
4. [Load Firmware (ファームウェアノ ロード)]をクリックします。

トラブルシューティング

この項の目次

トラブルシューティングに関する表	82
接続距離に関する表	83

トラブルシューティングに関する表

問題	解決策
ローカル ユーザがOSDの著作権表記を表示できません。 -または- OSDの著作権表記が歪んで表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> 電源コンセントが有効であることを確認してください。 ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。 モニタが有効であることを確認してください。
ローカル ユーザがOSDフラグを表示できません。	OSDで選択されている設定を事前に調べて、ローカル ポート表示が無効になっていないか、タイムアウトが設定されていないかを調べてください。ローカル ポート表示が無効になっていたり、タイムアウトが設定されていると、OSDフラグは表示されません。
ローカル ユーザがOSDを有効にしたり、表示したりできず、OSDフラグが消えます。	ローカル ポートのキーボードが正しく接続されていることと、キーボードが有効であることを確認してください。
ローカル ポートのビデオ表示で、OSDが歪んだり、文字が読めません。	モニタが、ターゲット サーバが設定されているリフレッシュレートをサポートしていることを確認してください。
HP KVMサーバ コンソール スイッチの電源を入れても、動作インジケータLED（17ページの「コンポーネント」を参照）が表示されません。	<ul style="list-style-type: none"> HP KVMサーバ コンソール スイッチの電源が入っており、電源コンセントが有効であることを確認してください。 ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。
システムがHP IPコンソール スイッチを認識しません。	すべてのHP IPコンソール スイッチは、SoftPaqファームウェアバージョン2.1.1以上でアップグレードする必要があります。
システムがコンパクト製サーバコンソール スイッチを認識しません。	すべてのコンパクト製サーバ コンソール スイッチは、SoftPaqファームウェア バージョン2.1.0以上でアップグレードする必要があります。
拡張モジュール（23ページの「拡張モジュールの取り付け」を参照）が、コンパクト製サーバ コンソール スイッチに認識されません。	拡張モジュール（23ページの「拡張モジュールの取り付け」を参照）は1層のカスケード接続（27ページの「コンソールスイッチのカスケード接続」を参照）と見なされます。このため、カスケード接続されたコンパクト製サーバ コンソール スイッチと組み合わせて使用することはできません。
パスワードを失ったので、HP KVMサーバ コンソール スイッチにアクセスできません。	HPのサービス窓口にお問い合わせください。
OSDにアクセスできません。	Ctrl キーを2度押してください。
サーバの接続を切断したのに、まだリストに表示されています。	[Diagnostics (シンダン)] ダイアログ ボックス （72ページの「[Run Diagnostics (シンダンノ ジッコウ)]の起動」を参照）で、 [Clear (クリア)] をクリックしてください。

問題	解決策
ビデオの画面が、すべて緑または赤で表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> • UTP CAT5ケーブルを調べて、破損したり圧迫されたりしていないかを確認します。 • VGAの接続を調べて、折れ曲がったピンがないかどうかを確認します。
スクリーン セーバがオンになりません。	スクリーン セーバの選択を確認する際は、必ず、 [OK] をクリックしてください。 [X] をクリックしたり、 Esc を押したりすると、コマンドが取り消されます。
ビデオ解像度を正しく設定できません。	詳しくは、接続距離に関する表（83ページ）を参照してください。

接続距離に関する表

HP KVMサーバ コンソール スイッチのビデオ性能を最適に保つには、サーバとコンソール スイッチ間の距離を約15.24m（75Hz時1280×1024）以内に保ってください。ビデオ解像度を低く設定（60Hz時800×640、最低）すると、システムは、最長30.48mの距離でも動作できます。

	1280 × 1024	1024 × 768	800 × 640
15.24m	X	X	X
22.86m			X
30.48m			X

規定に関するご注意

この項の目次

規定準拠識別番号	85
各国別勧告	85

ご使用になっている装置にVCCIマークが付いていましたら、次の説明文をお読みください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCIマークが付いていない場合には、次の点にご注意ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

規定準拠識別番号

規定に準拠していることの証明と識別のために、この製品には、固有のシリーズ番号が割り当てられています。このシリーズ番号は、必要な認可マークおよび情報とともに、製品銘板ラベルに印刷されています。この製品の認可情報を請求する場合は、必ず、このシリーズ番号を参照してください。このシリーズ番号は、製品名または製品モデル番号ではありません。

各国別勧告

以下に日本以外の国や地域での規定を掲載します。

Federal Communications Commission Notice

Part 15 of the Federal Communications Commission (FCC) Rules and Regulations has established Radio Frequency (RF) emission limits to provide an interference-free radio frequency spectrum. Many electronic devices, including computers, generate RF energy incidental to their intended function and are, therefore, covered by these rules. These rules place computers and related peripheral devices into two classes, A and B, depending upon their intended installation. Class A devices are those that may reasonably be expected to be installed in a business or commercial environment. Class B devices are those that may reasonably be expected to be installed in a residential environment (for example, personal computers). The FCC requires devices in both classes to bear a label indicating the interference potential of the device as well as additional operating instructions for the user.

FCC Rating Label

The FCC rating label on the device shows the classification (A or B) of the equipment. Class B devices have an FCC logo or ID on the label. Class A devices do not have an FCC logo or ID on the label. After you determine the class of the device, refer to the corresponding statement.

Class A Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference, in which case the user will be required to correct the interference at personal expense.

Class B Equipment

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit that is different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio or television technician for help.

Declaration of Conformity for Products Marked with the FCC Logo, United States Only

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

For questions regarding this product, contact us by mail or telephone:

- Hewlett-Packard Company
P. O. Box 692000, Mail Stop 530113
Houston, Texas 77269-2000
- 1-800-652-6672 (For continuous quality improvement, calls may be recorded or monitored.)

For questions regarding this FCC declaration, contact us by mail or telephone:

- Hewlett-Packard Company
P. O. Box 692000, Mail Stop 510101
Houston, Texas 77269-2000
- 1-281-514-3333

To identify this product, refer to the part, series, or model number found on the product.

Modifications

The FCC requires the user to be notified that any changes or modifications made to this device that are not expressly approved by Hewlett-Packard Company may void the user's authority to operate the equipment.

Cables

Connections to this device must be made with shielded cables with metallic RFI/EMI connector hoods in order to maintain compliance with FCC Rules and Regulations.

Canadian Notice (Avis Canadien)

Class A Equipment

This Class A digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe A respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

Class B Equipment

This Class B digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

European Union Notice



Products bearing the CE marking comply with the EMC Directive (89/336/EEC) and the Low Voltage Directive (73/23/EEC) issued by the Commission of the European Community and, if this product has telecommunication functionality, the R&TTE Directive (1999/5/EC).

Compliance with these directives implies conformity to the following European Norms (in parentheses are the equivalent international standards and regulations):

- EN 55022 (CISPR 22)—Electromagnetic Interference
- EN55024 (IEC61000-4-2, 3, 4, 5, 6, 8, 11)—Electromagnetic Immunity
- EN61000-3-2 (IEC61000-3-2)—Power Line Harmonics
- EN61000-3-3 (IEC61000-3-3)—Power Line Flicker
- EN 60950 (IEC60950)—Product Safety

BSMI Notice

警告使用者:

這是甲類的資訊產品，在居住的環境中使用時，可能會造成射頻干擾，在這種情況下，使用者會被要求採取某些適當的對策。

Korean Notices

Class A Equipment

A급 기기 (업무용 정보통신기기)

이 기기는 업무용으로 전자파적합등록을 한 기기이오니 판매자 또는 사용자는 이 점을 주의하시기 바라며, 만약 잘못판매 또는 구입하였을 때에는 가정용으로 교환하시기 바랍니다.

Class B Equipment

B급 기기 (가정용 정보통신기기)

이 기기는 가정용으로 전자파적합등록을 한 기기로서 주거지역에서는 물론 모든지역에서 사용할 수 있습니다.

頭字語と略語

CRC

Cyclic Redundant Checks。巡回冗長検査

EID

Electronic Identification Number。電子ID番号

IA

Interface Adapter。インタフェースアダプタ

KVM

Keyboard, Video, and Mouse。キーボード、ビデオ、およびマウス

OSD

On-screen Display。オンスクリーンディスプレイ

USB

Universal Serial Bus。ユニバーサルシリアルバス

UTP

Unshielded Twisted Pair。非シールドツイストペア

VDC

Voltage Direct-current

VGA

Video Graphics Array

索引

1

IUマウント 13、15

B

[Broadcast (ブロードキャスト)]
ダイアログ ボックス 59、60
BSMI Notice 90

C

Cables 88
Canadian Notice (Avis Canadien) 88
Class A Equipment 86、88、90
Class B Equipment 87、88、90
[Commands (コマンド)]ダイア
ログ ボックス 69

D

[Devices (デバイス)]ダイアログ
ボックス 51、52

E

European Union Notice 89

F

FCC Rating Label 86
Federal Communications Commission
Notice 86
[Flag (フラグ)]ダイアログ ボッ
クス 56、57

H

HP IPコンソール スイッチ 29、
36、39
HP KVMサーバ コンソール ス
イッチ
カスケード構成 32
取り付け 7

K

Korean Notices 90
KVMサーバ コンソール スイッチ
へのログオン 65

M

[Main (メイン)]ダイアログ ボッ
クス 41、42、44、45、46
[Menu (メニュー)]ダイアログ
ボックス 55
Modifications 88

N

[Names (ナマエ)]ダイアログ
ボックス 50

O

OSD
サーバタスクの管理 69
表示するまでの遅延時間 56
OSD操作のためのキーの使用方
法 48

R

[Run Diagnostics (シンダンノ ジッ
コウ)] 72

S

- [Scan (スキャン)]ダイアログボックス 61、62
- [Scan (スキャン)]リスト 61
 - サーバの削除 62
 - サーバの追加 61
- [Security (セキュリティ)]ダイアログボックス 63、64、65、66、67
- [Setup (セッテイ)]ダイアログボックス 49
- [Switch]ダイアログボックス 68

V

- [Version (バージョン)]ダイアログボックス 73、74

あ

アクセス

- [Broadcast (ブロードキャスト)]ダイアログボックス 59
- [Commands (コマンド)]ダイアログボックス 69
- [Devices (デバイス)]ダイアログボックス 51
- [Flag (フラグ)]ダイアログボックス 57
- [Main (メイン)]ダイアログボックス 41
- [Menu (メニュー)]ダイアログボックス 55
- [Names (ナマエ)]ダイアログボックス 50
- [Scan (スキャン)]ダイアログボックス 61
- [Security (セキュリティ)]ダイアログボックス 64
- [Setup (セッテイ)]ダイアログボックス 49

- [Switch]ダイアログボックス 68

- [Version (バージョン)]ダイアログボックス 74

い

- インタフェースアダプタ 21、78、79
 - ファームウェアの個々のアップグレード 79
 - ファームウェアの同時更新 78

お

- オプションの品目 8

か

- 拡張モジュール 23、24、25、26
- カスケード構成
 - HP IPコンソールスイッチ 39
- 各国別勧告 85

き

- キットの内容 7
 - 拡張モジュール 23
- 規定準拠識別番号 85
- 規定に関するご注意 85
- 起動
 - [Broadcast (ブロードキャスト)]ダイアログボックス 60
 - [Run Diagnostics (シンダンのジッコウ)] 72
 - スキャンモード 62
 - スクリーンサーバモード 66

こ

更新

- ファームウェア 77
- コンソールスイッチ
 - カスケード接続 27、29、33、36
 - モデル、互換性 27
- コンパクト製サーバコンソール
 - スイッチ 28、33、35
 - カスケード構成 35
- コンポーネント 17

さ

サーバ

- 選択 45
 - ソフトスイッチの設定 46
 - タスクの管理 50
 - 表示順の選択 55
 - 表示と選択 42
 - ブロードキャスト 58
- サーバステータス 44
- サーバ名 50
 - 追加 19
 - 割り当て 50
- サイドマウント 9、10、24

し

- システム診断の実行 70
- システムの構成 17、21

す

- スイッチモード
 - 変更 67
- スキャンパターン
 - 設定 60
- スキャンモード
 - 起動 62
 - 停止 62

- スクリーンセーバの無効化 67
- スクリーンセーバモード
 - 起動 66
 - 終了 66
- ステータスフラグ
 - 制御 56
 - 表示 57

せ

接続距離 83 設定

- OSDを表示するまでの遅延時間 56
- [Setup (セッテイ)]ダイアログボックス 49
- インタフェースアダプタ 21
- 拡張モジュール 26
- スキャンパターン 60

そ

- ソフトスイッチ 46、47

て

- デバイスタイプ
 - 変更 52
 - 割り当て 51

と

- 同梱されていない必要な品目 8
- トラブルシューティング 82
- 取り付け
 - インタフェースアダプタ 21
 - 概要 7
 - 拡張モジュール 23
 - チェックリスト 7

は

- バージョン情報の表示 73
- パスワードの変更 64
- パスワード保護
 - 削除 65
 - 設定 65

ひ

- 必要な工具 8
- 表示動作の変更 55
- 標準マウント 12

ふ

- ファームウェアの更新 77

へ

- 変更
 - スイッチモード 67

ほ

- ポートおよびサーバの表示と選択 42

ま

- マジック テープ マウント 26

ら

- ラックへのHP KVMサーバコンソールスイッチの取り付け 8
- ラックマウントキット 7

ろ

- ローカル コンソール スイッチのセキュリティの設定 63
- ローカル ポート操作 41